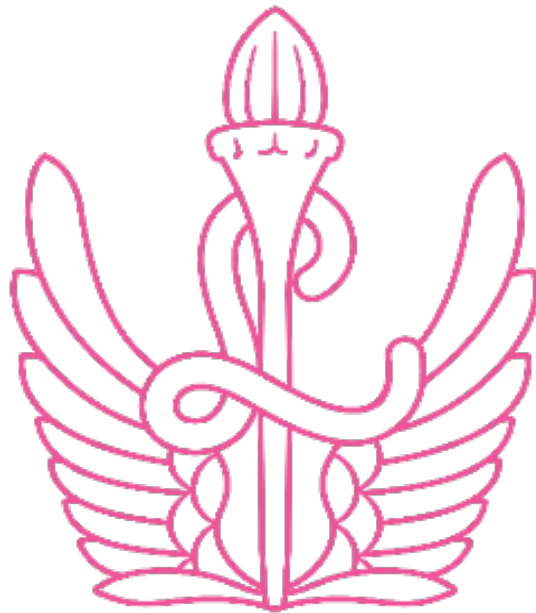


研究白書

2023

集計対象期間：2016年度～2022年度
(一部、2023年5月1日時点の数値を使用)



2024年3月15日
東京外国語大学

目次

第1章 組織	3
研究者	3
第2章 研究予算	9
研究費予算	9
第3章 外部資金	13
第1節 科研費	13
受入金額	13
受入件数	16
研究種目別	18
採択率	20
科研費保有数	21
2022年度 実施課題一覧	22
第2節 受託研究・共同研究・受託事業	30
受託研究	30
共同研究	32
受託事業	33
第3節 寄附金	34
寄附金	34
第4章 研究業績一覧	35
大学院総合国際学研究院	35
大学院国際日本学研究院	41
世界言語社会教育センター	43
アジア・アフリカ言語文化研究所	46

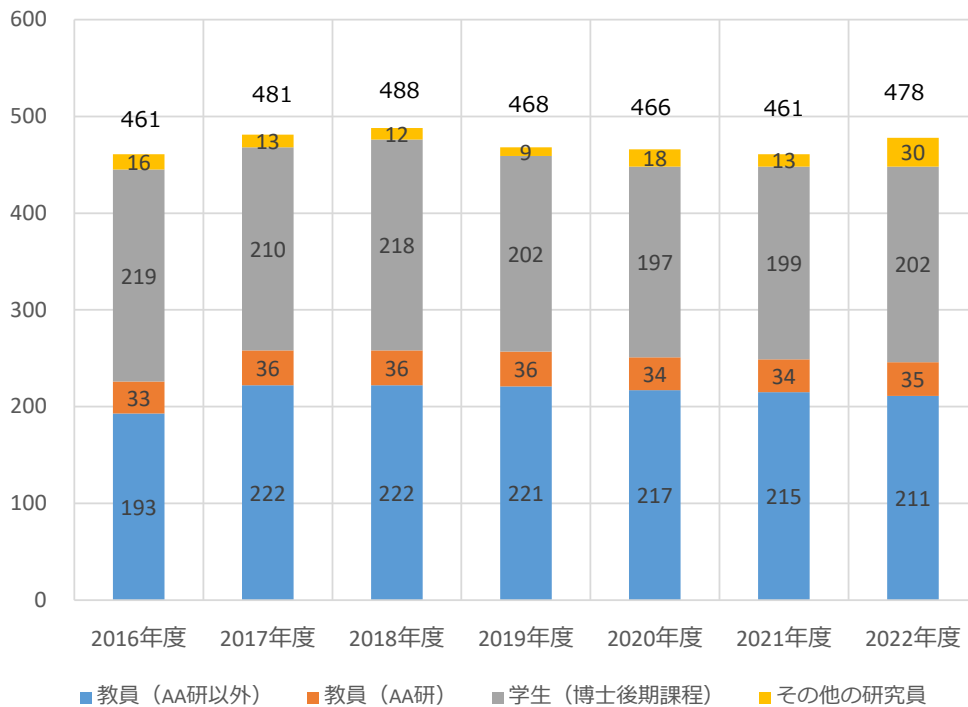
第1章

組織

研究者

●研究者数（本務者）の推移

単位：名



※注：「AA研」はアジア・アフリカ言語文化研究所を指す（以下「AA研」）

総務省「科学技術研究調査」2016年度～2022年度の本学回答分をもとに作成

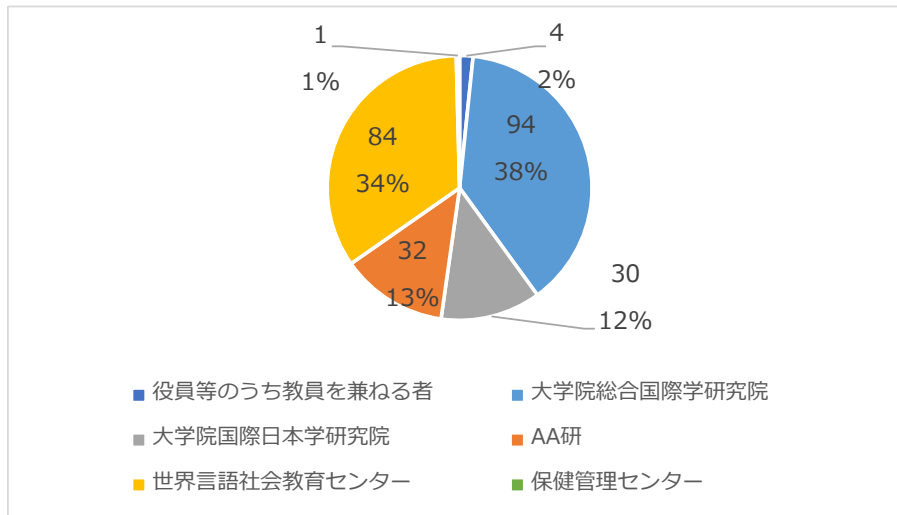
単位：名

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
教員	226	258	258	257	251	249	246
うち、AA研	33	36	36	36	34	34	35
学生（博士後期課程）	219	210	218	202	197	199	202
その他の研究員	16	13	12	9	18	13	30
本務者合計	461	481	488	468	466	461	478

●2023年度 教員の内訳（2023年5月1日現在）

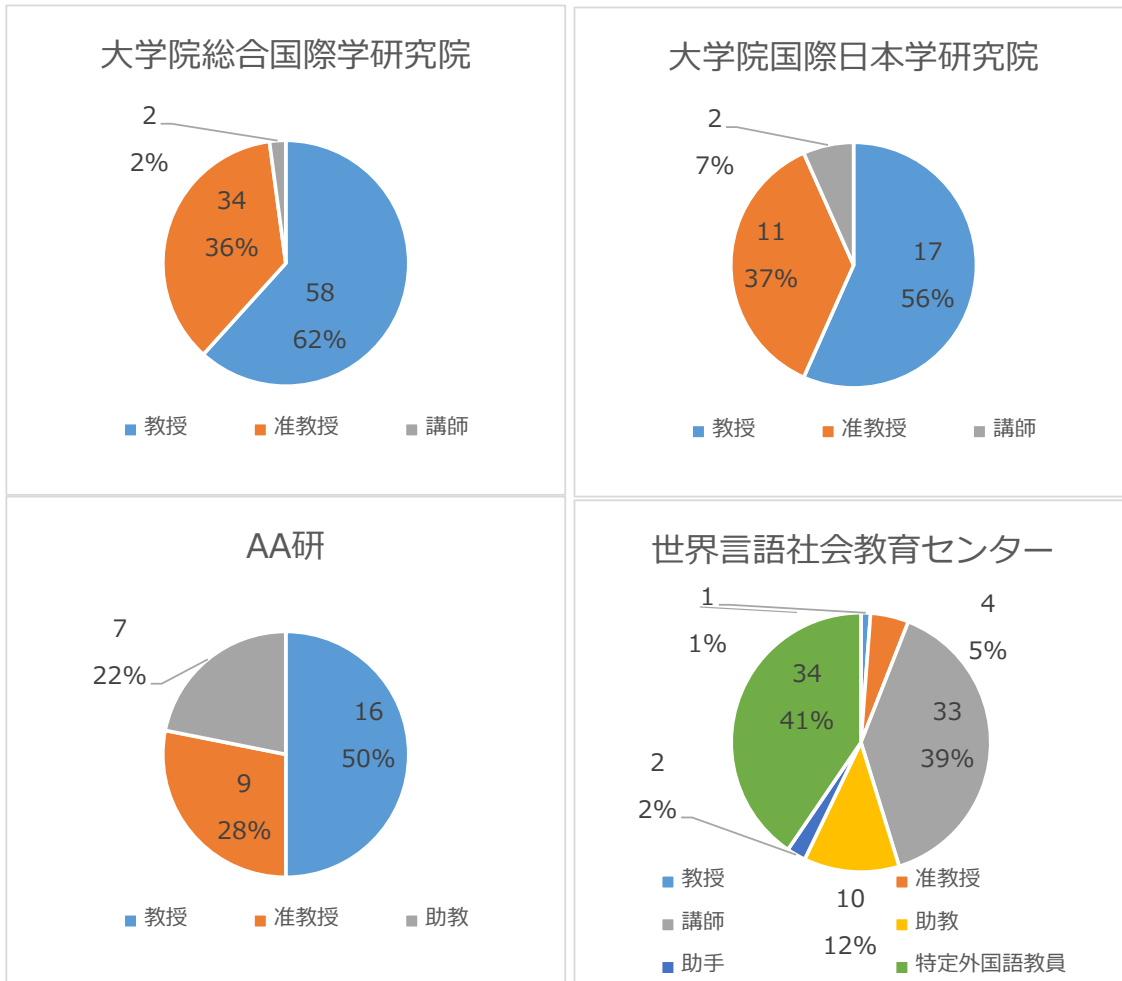
1 部局別

単位：名



2 職位別

単位：名

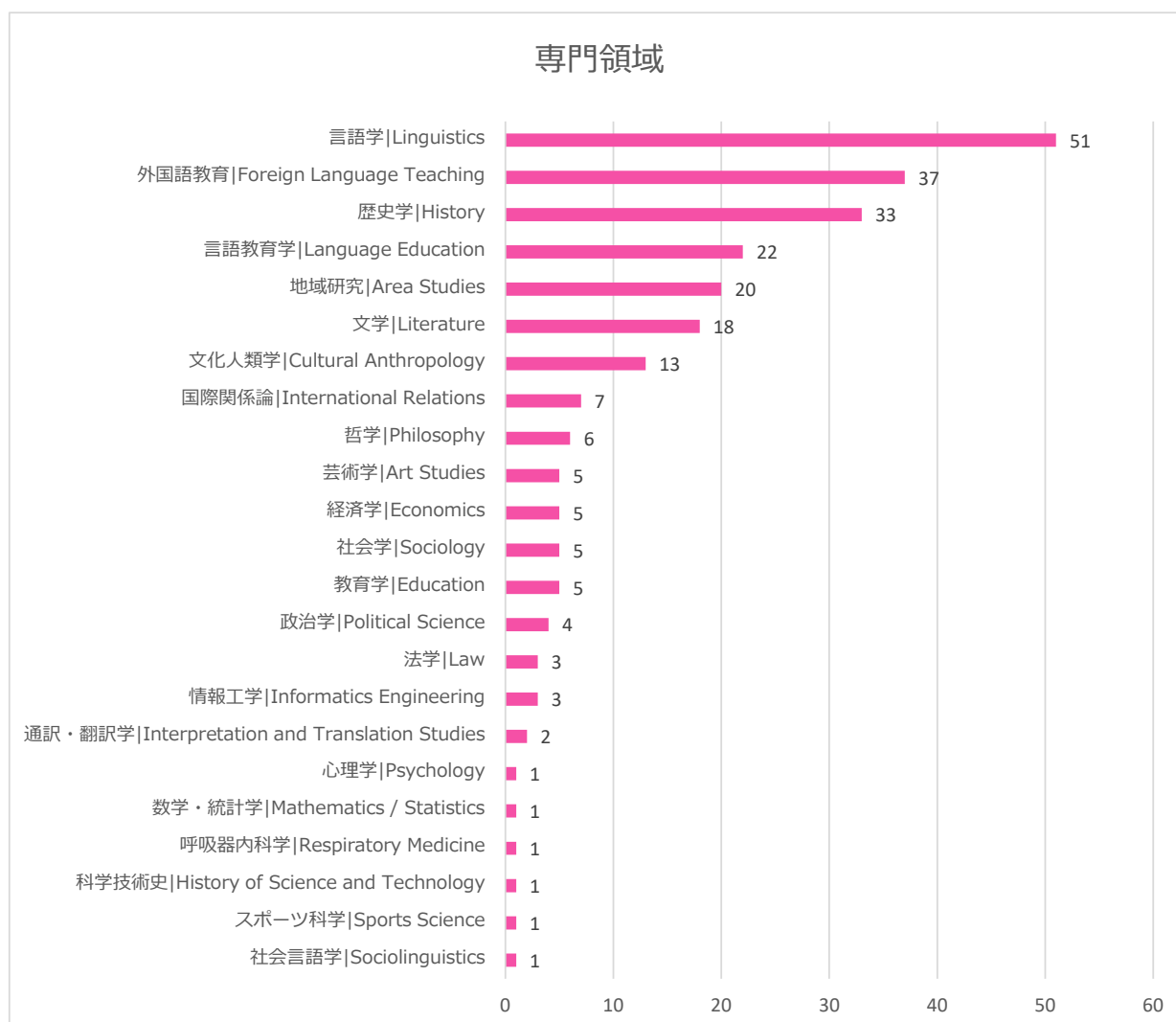


単位：名

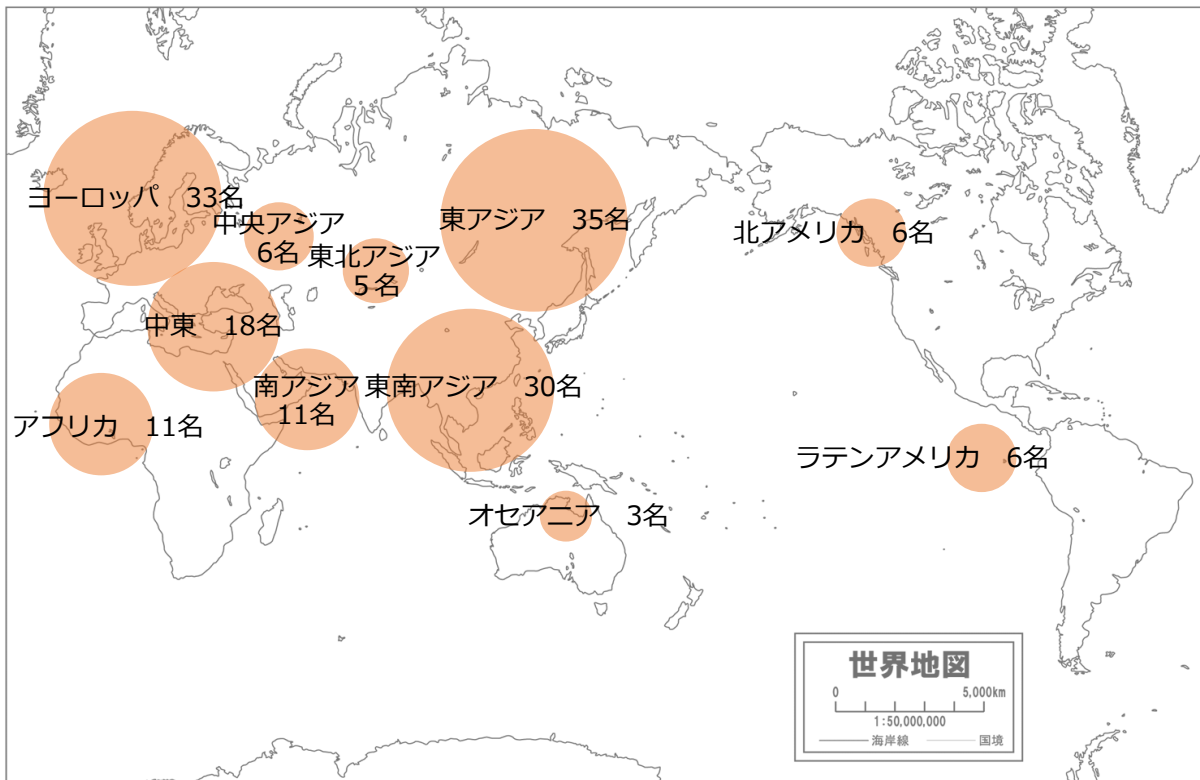
項目名／職位	教授	准教授	講師	助教	助手	特定外国語教員	合計
役員等のうち教員を兼ねる者	4	0	0	0	0	0	4
大学院総合国際学研究院	58	34	2	0	0	0	94
大学院国際日本学研究院	17	11	2	0	0	0	30
AA研	16	9	0	7	0	0	32
世界言語社会教育センター	1	4	33	10	2	34	84
保健管理センター	1	0	0	0	0	0	1
教員合計	97	58	37	17	2	34	245

3 分野別

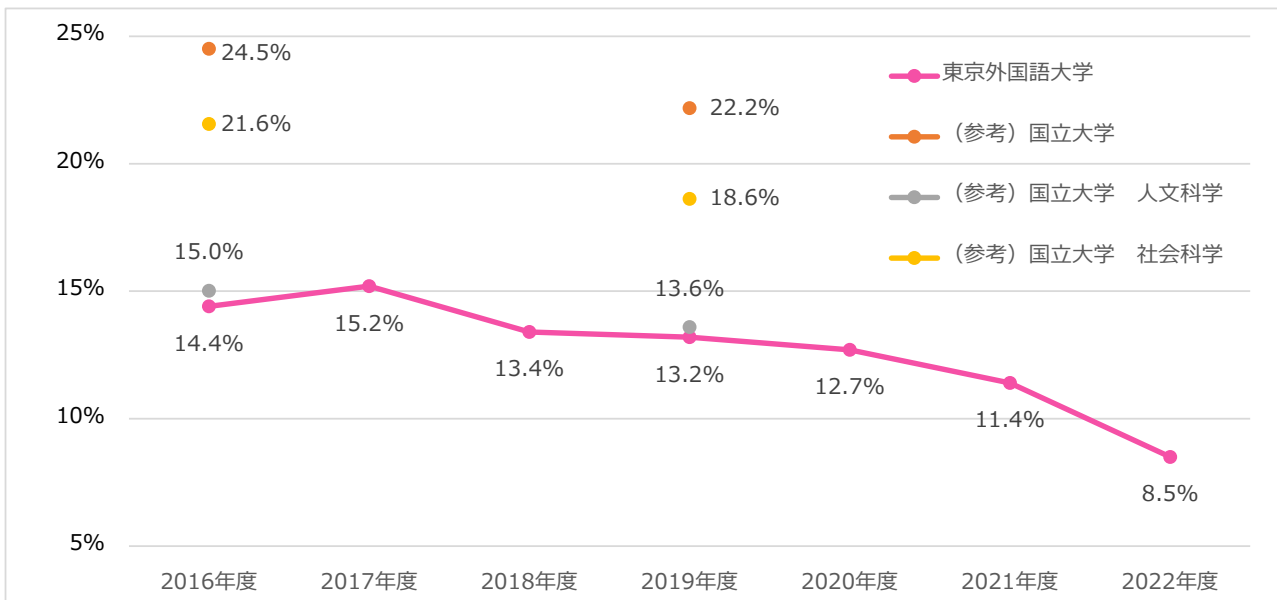
単位：名



専門地域



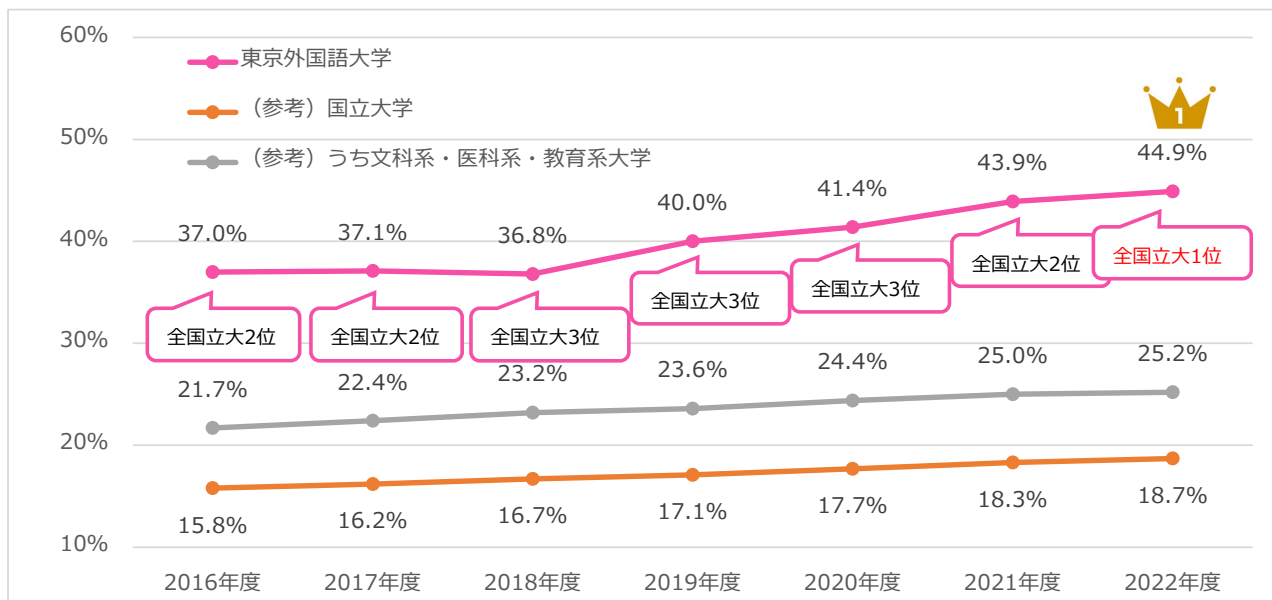
● 本務教員に占める40歳未満教員の割合の推移



文部科学省「学校教員統計調査」及び本学ウェブサイトより作成
 (<https://www.tufts.ac.jp/abouttufts/organization/personnel.html>)

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
東京外国語大学	14.4%	15.2%	13.4%	13.2%	12.7%	11.4%	8.5%
(参考) 国立大学	24.5%	—	—	22.2%	—	—	—
(参考) うち人文科学	15.0%	—	—	13.6%	—	—	—
(参考) うち社会科学	21.6%	—	—	18.6%	—	—	—

● 女性教員比率の推移



※国立大学の特性格別区分について

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による各国立大学の財務関係情報の集計・分析に用いられる特性格別区分（86大学を学部構成等の特性に応じて①旧帝国大学、②附属病院を有する総合大学、③附属病院を有しない総合大学、④理工系大学、⑤文科系大学、⑥医科系大学、⑦教育系大学、⑧大学院大学の8区分に分類）を基に、女性教員比率に近い⑤文科系大学、⑥医科系大学、⑦教育系大学の3区分を文科系大学・医科系大学・教育系大学とまとめている。

なお、⑧大学院大学については、設置している専攻の特性に応じて一部を本区分に追加する。

● 文科系大学・医科系大学・教育系大学 一覧（22大学）

【⑤文科系大学 5大学】小樽商科大学、東京外国語大学、東京藝術大学、一橋大学、滋賀大学

【⑥医科系大学 4大学】旭川医科大学、東京医科歯科大学、浜松医科大学、滋賀医科大学

【⑦教育系大学 12大学】北海道教育大学、宮城教育大学、東京学芸大学、上越教育大学、
愛知教育大学、京都教育大学、大阪教育大学、兵庫教育大学、
奈良教育大学、鳴門教育大学、福岡教育大学、鹿屋体育大学

【⑧大学院大学 のうち本区分に分類される大学 1大学】政策研究大学院大学

一般社団法人国立大学協会

「国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第19回追跡調査報告書」より作成

(https://www.janu.jp/wp/wp-content/uploads/2023/02/202301houkoku_01.pdf)

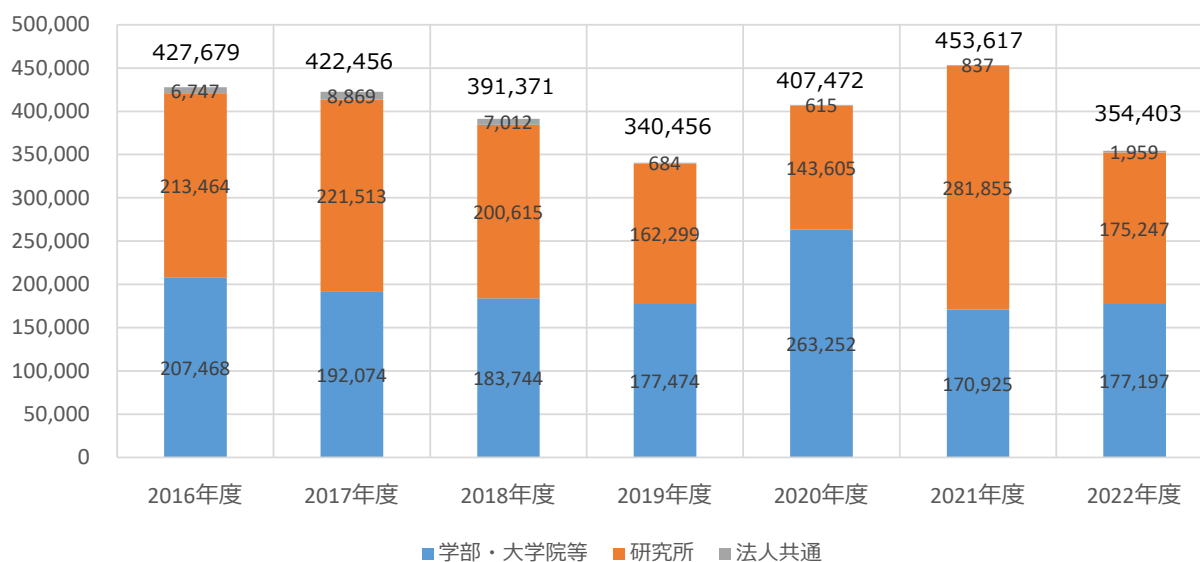
項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
東京外国語大学	37.0%	37.1%	36.8%	40.0%	41.4%	43.9%	44.9%
(参考) 国立大学	15.8%	16.2%	16.7%	17.1%	17.7%	18.3%	18.7%
(参考) うち文科系・医科系・教育系大学	21.7%	22.4%	23.2%	23.6%	24.4%	25.0%	25.2%

第2章 研究予算

研究費予算

●セグメント別 研究経費の推移

単位：千円



セグメント	業務内容（構成する組織）
学部・大学院等	～2021年度 学部、大学院、留学生日本語教育センター 2022年度～ 言語文化学部、国際社会学部、国際日本学部、大学院総合国際学研究科
研究所	アジア・アフリカ言語文化研究所
法人共通	附属図書館、総合情報コラボレーションセンター、保健管理センター、事務局

※各年度 本学の財務諸表「開示すべきセグメント情報」より抜粋

単位：千円

セグメント名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
学部・大学院等	207,468	192,074	183,744	177,474	263,252	170,925	177,197
研究所	213,464	221,513	200,615	162,299	143,605	281,855	175,247
法人共通	6,747	8,869	7,012	684	615	837	1,959
合計	427,679	422,456	391,371	340,456	407,472	453,617	354,403

● 国立大学の財務分析比率（研究分野）

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構では、各国立大学法人の財務諸表、事業報告書及び決算報告書などの公表資料のうち、財務関係の情報について集計・分析を行い、各国立大学法人が財務・経営改善の検討を行う際の参考資料として作成している。

各国立大学の財務関係情報の集計・分析に用いられる特性格別区分（86大学を学部構成等の特性に応じて①旧帝国大学、②附属病院を有する総合大学、③附属病院を有しない総合大学、④理工系大学、⑤文科系大学、⑥医科系大学、⑦教育系大学、⑧大学院大学の8区分に分類）に基づき、研究分野の財務分析を行う。

【⑤文科系大学 5大学】小樽商科大学、東京外国語大学、東京藝術大学、一橋大学、滋賀大学

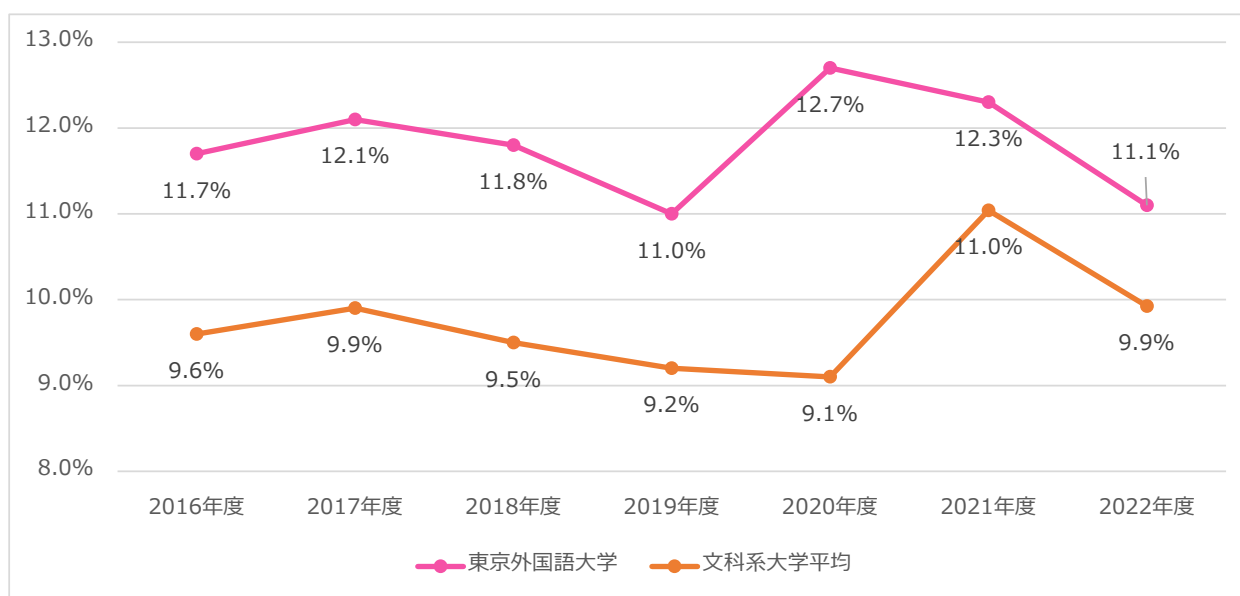
2016～2021年度 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構「国立大学法人の財務(大学別概要)」
(https://www.niad.ac.jp/support/university_finance/summary/)

2022年度 各大学令和4年度決算より作成

1 研究経費比率

定義式 = (【損益計算書】研究経費 + 受託研究費 + 共同研究費 + 【科学研究費補助金の明細】科研費等の直接経費) / (【損益計算書】経常費用 + 【科学研究費補助金の明細】科研費等の直接経費) × 100

研究活動で消費される経費が大学の経常的な経費に占める割合を示す。この数値が大きいほど、研究活動に使用される資源の割合が高いことを示す。ただし、分子の【損益計算書】研究経費には人件費等が含まれておらず、また研究経費として大学の基盤的研究以外に受託研究及び科研費等による研究で消費される経費を含めている。

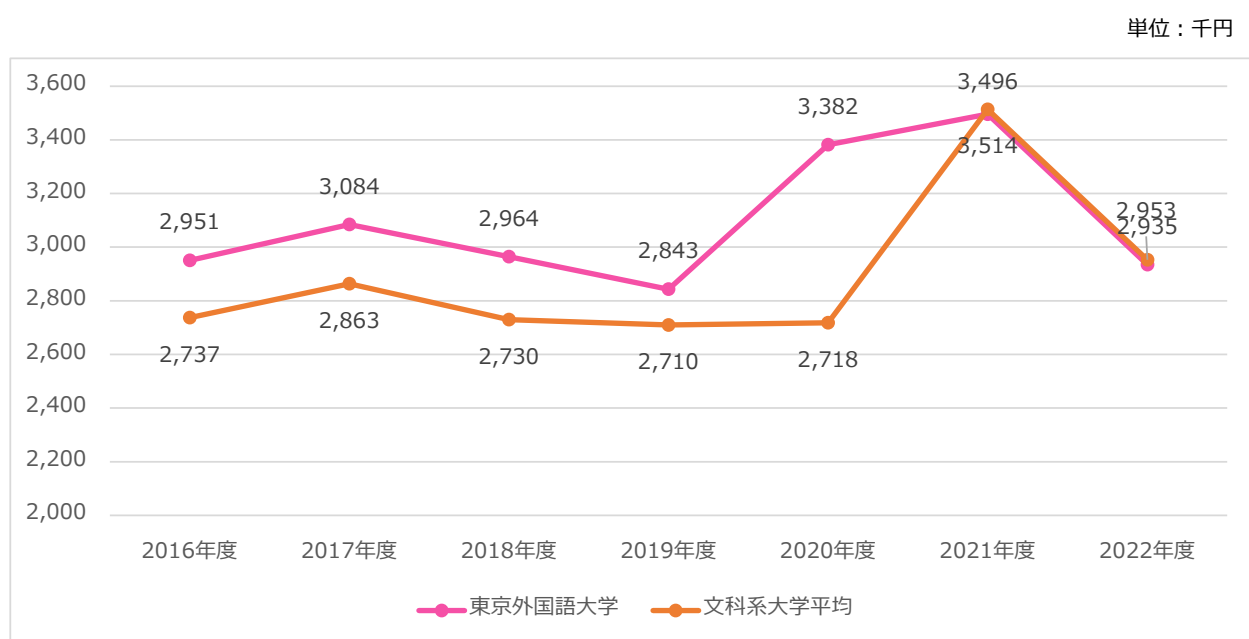


項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
東京外国語大学	11.7%	12.1%	11.8%	11.0%	12.7%	12.3%	11.1%
文科系大学平均	9.6%	9.9%	9.5%	9.2%	9.1%	11.0%	9.9%

2 常勤教員一人当たり研究費

定義式 = (【損益計算書】研究経費 + 受託研究費 + 共同研究費 + 【科学研究費補助金の明細】科研費等の直接経費) / (【大学基本情報】教員数(本務者))

常勤教員一人当たりの研究活動を経費面で示す指標。分子の【損益計算書】研究経費には人件費等が含まれておらず、外部資金による研究経費(科研費等に関する附属明細書に掲載されている資金に限定)が含まれている。この数値が大きいほど、研究活動で使用される経費が大きい(財務的に研究活動が盛ん)と解釈できる。ただし、学部・学科や大学院研究科の構成・規模や附属病院の有無によって研究活動に必要とする資金量が異なる。とりわけ、附置研究所を有する大学は高めに算定される可能性があることに注意が必要。



単位：千円

項目名/年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
東京外国語大学	2,951	3,084	2,964	2,843	3,382	3,496	2,935
文科系大学平均	2,737	2,863	2,730	2,710	2,718	3,514	2,953

第3章 外部資金

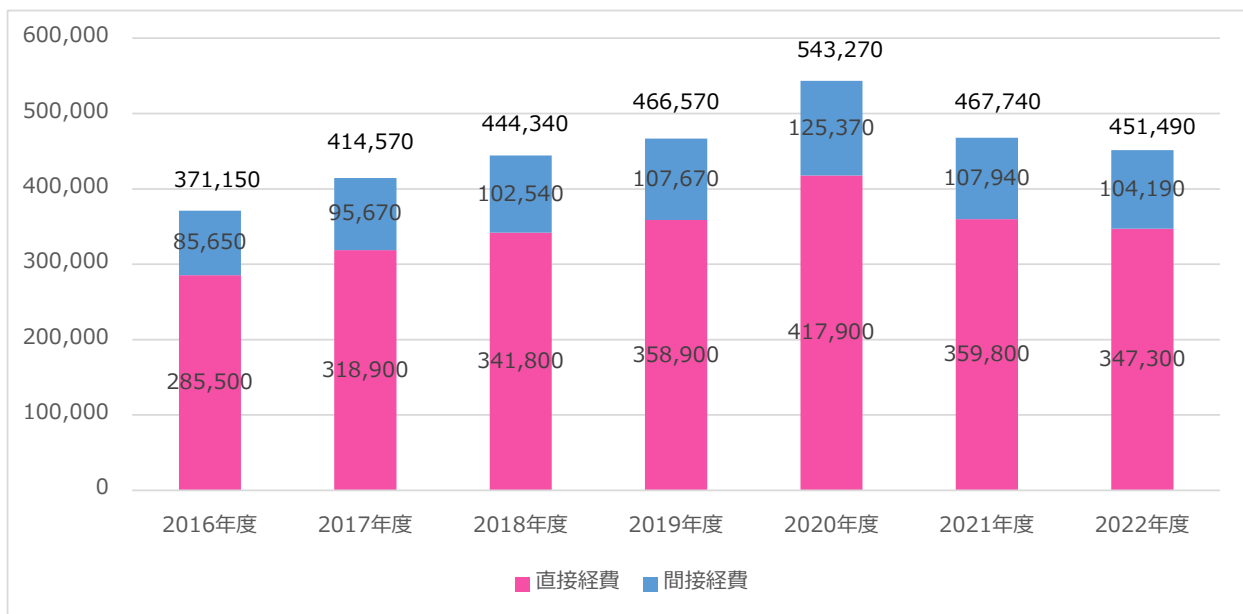
第1節 科研費

受入金額

● 受入金額の推移

1 本学

単位：千円



日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016年度～2022年度をもとに作成

(https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html)

単位：千円

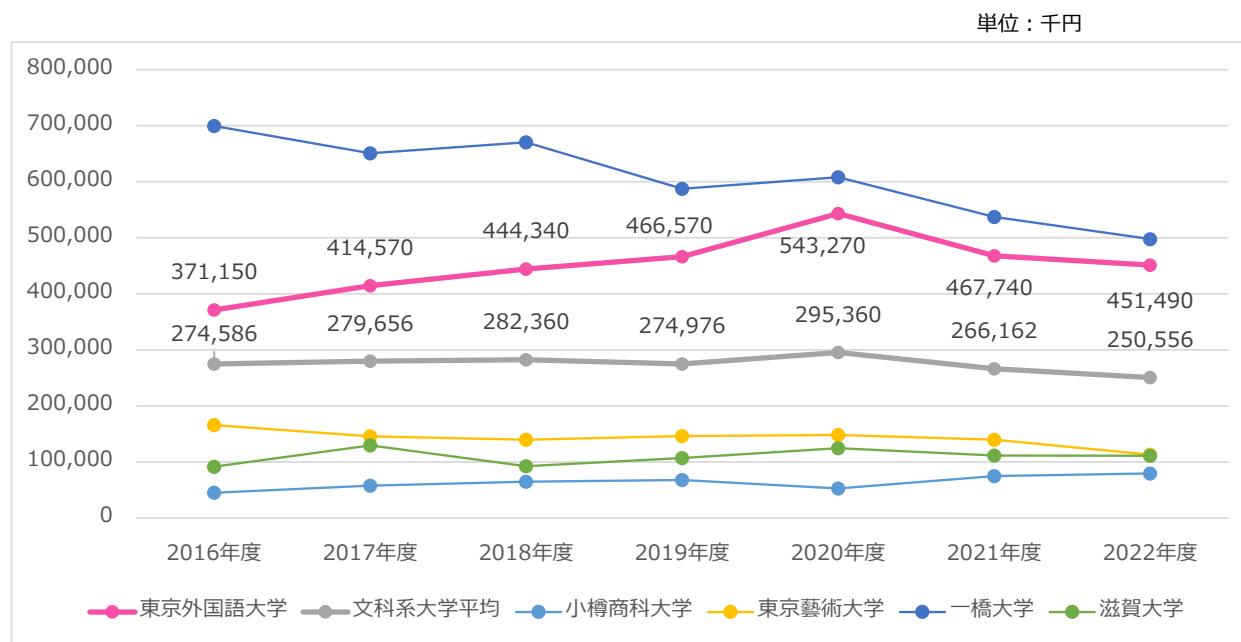
項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
直接経費	285,500	318,900	341,800	358,900	417,900	359,800	347,300
間接経費	85,650	95,670	102,540	107,670	125,370	107,940	104,190
合計	371,150	414,570	444,340	466,570	543,270	467,740	451,490

2 他大学との比較

※国立大学の文科系大学について

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による各国立大学の財務関係情報の集計・分析に用いられる特性格別区分（86大学を学部構成等の特性に応じて①旧帝国大学、②附属病院を有する総合大学、③附属病院を有しない総合大学、④理工系大学、⑤文科系大学、⑥医科系大学、⑦教育系大学、⑧大学院大学の8区分に分類）を基に、⑤文科系大学の5大学間で比較を行う。

【⑤文科系大学 5大学】小樽商科大学、東京外国語大学、東京藝術大学、一橋大学、滋賀大学



日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016年度～2022年度をもとに作成

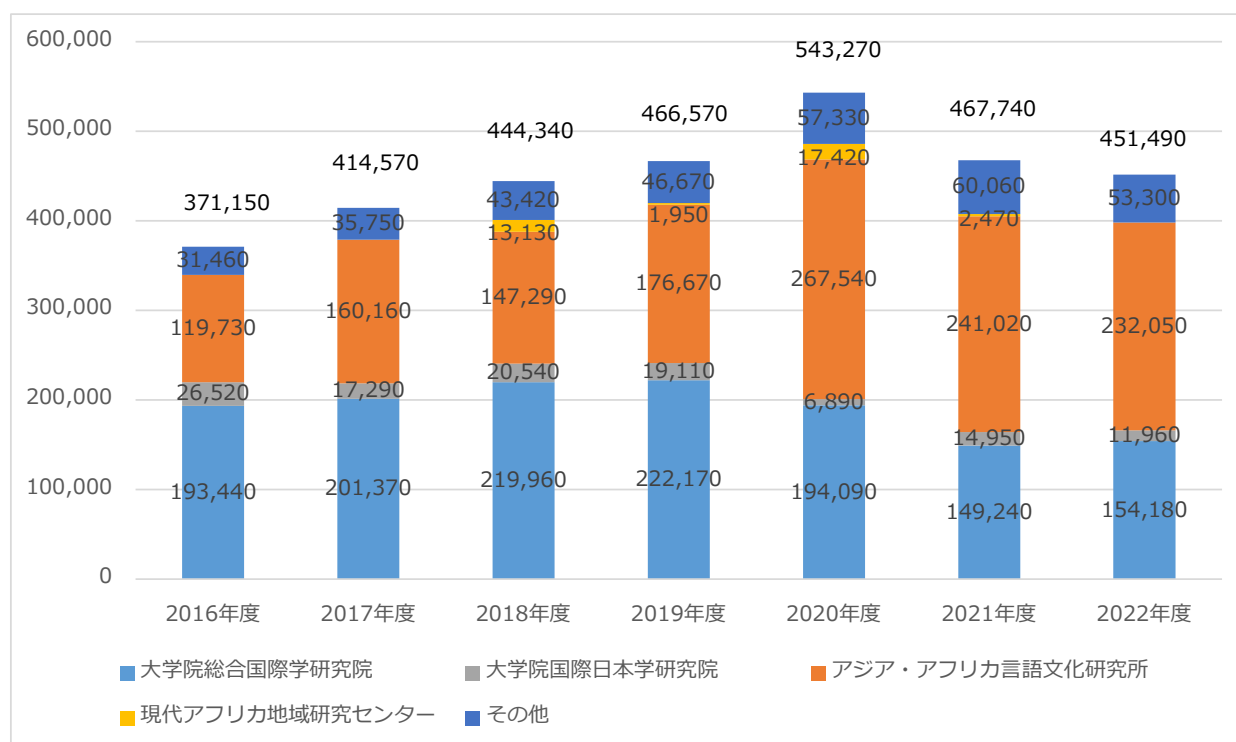
(https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html)

単位：千円

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
東京外国語大学	371,150	414,570	444,340	466,570	543,270	467,740	451,490
文科系大学平均	274,586	279,656	282,360	274,976	295,360	266,162	250,556
(参考) 国立大学平均	1,561,951	1,568,953	1,561,298	1,560,501	1,589,521	1,596,235	1,578,559

● 部局別受入金額の推移

単位：千円



日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016年度～2022年度 (https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html) 及び学内資料をもとに作成

単位：千円

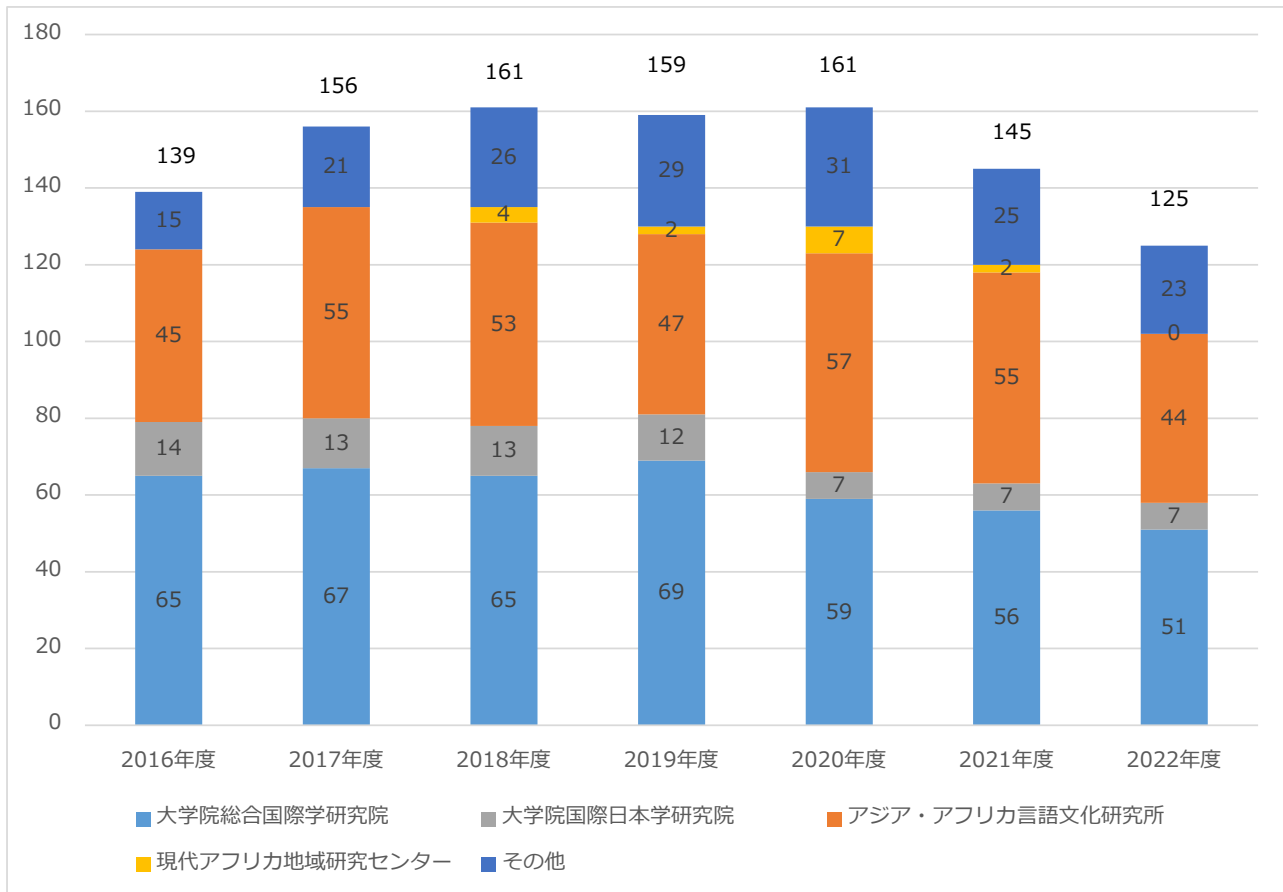
項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
大学院総合国際学研究院	193,440	201,370	219,960	222,170	194,090	149,240	154,180
大学院国際日本学研究院	26,520	17,290	20,540	19,110	6,890	14,950	11,960
アジア・アフリカ言語文化研究所	119,730	160,160	147,290	176,670	267,540	241,020	232,050
現代アフリカ地域研究センター	-	-	13,130	1,950	17,420	2,470	0
その他	31,460	35,750	43,420	46,670	57,330	60,060	53,300
合計	371,150	414,570	444,340	466,570	543,270	467,740	451,490

受入件数

● 受入件数の推移

1 本学

単位：件



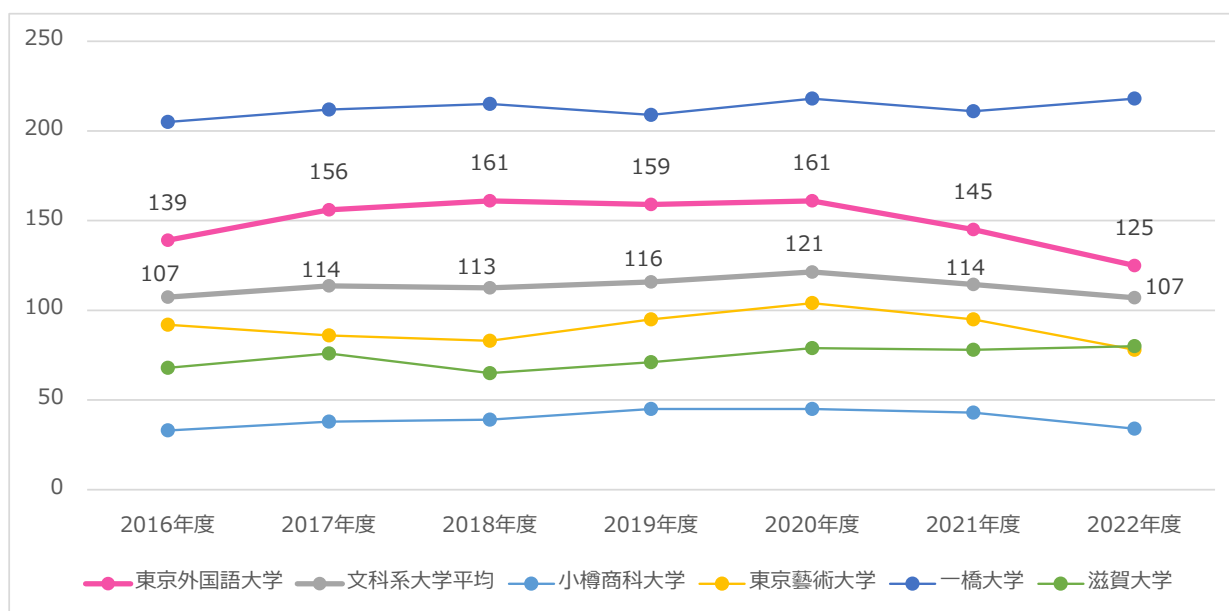
日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016年度～2022年度 (https://www.jps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html) 及び学内資料をもとに作成

単位：件

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
大学院総合国際学研究院	65	67	65	69	59	56	51
大学院国際日本学研究院	14	13	13	12	7	7	7
アジア・アフリカ言語文化研究所	45	55	53	47	57	55	44
現代アフリカ地域研究センター	-	-	4	2	7	2	0
その他	15	21	26	29	31	25	23
合計	139	156	161	159	161	145	125

2 他大学との比較

単位：件



日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016年度～2022年度をもとに作成
 (https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html)

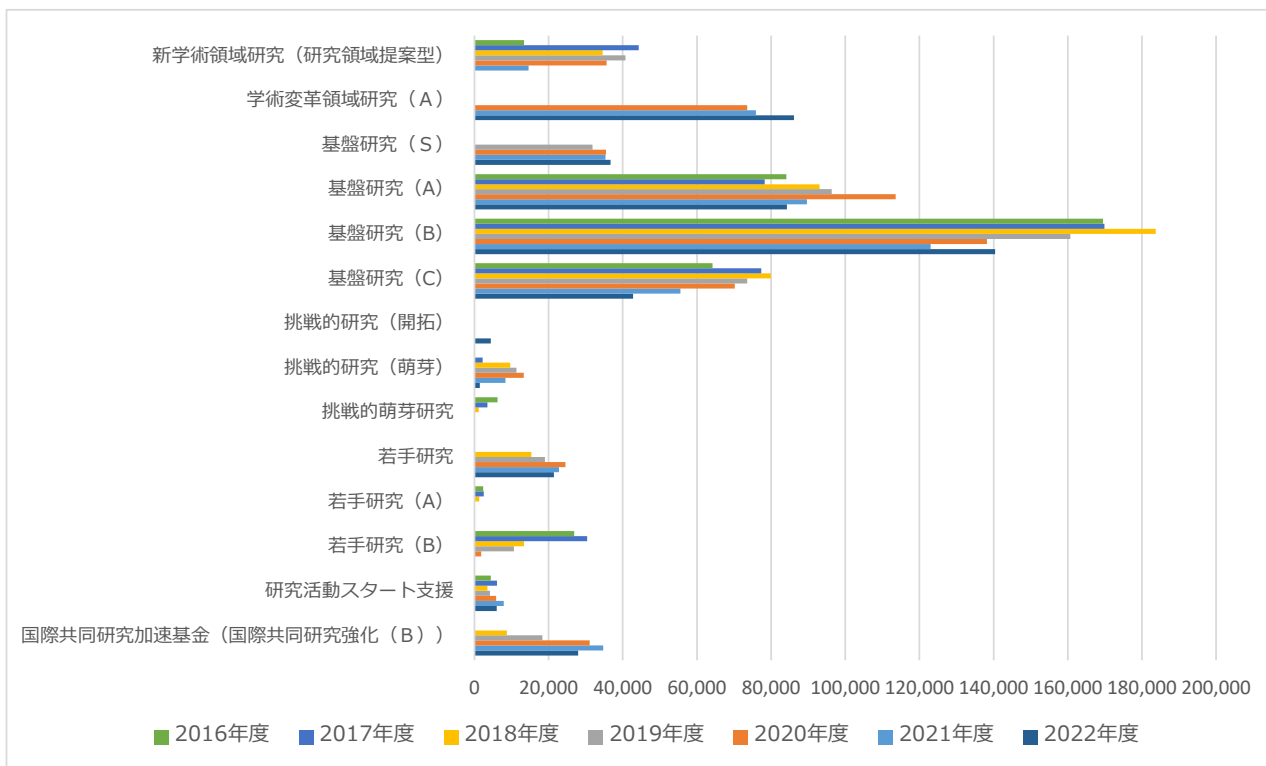
単位：件

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
東京外国語大学	139	156	161	159	161	145	125
文科系大学平均	107	114	113	116	121	114	107
(参考) 国立大学平均	474	469	460	475	492	496	493

研究種目別

● 研究種目別受入金額の推移

単位：千円

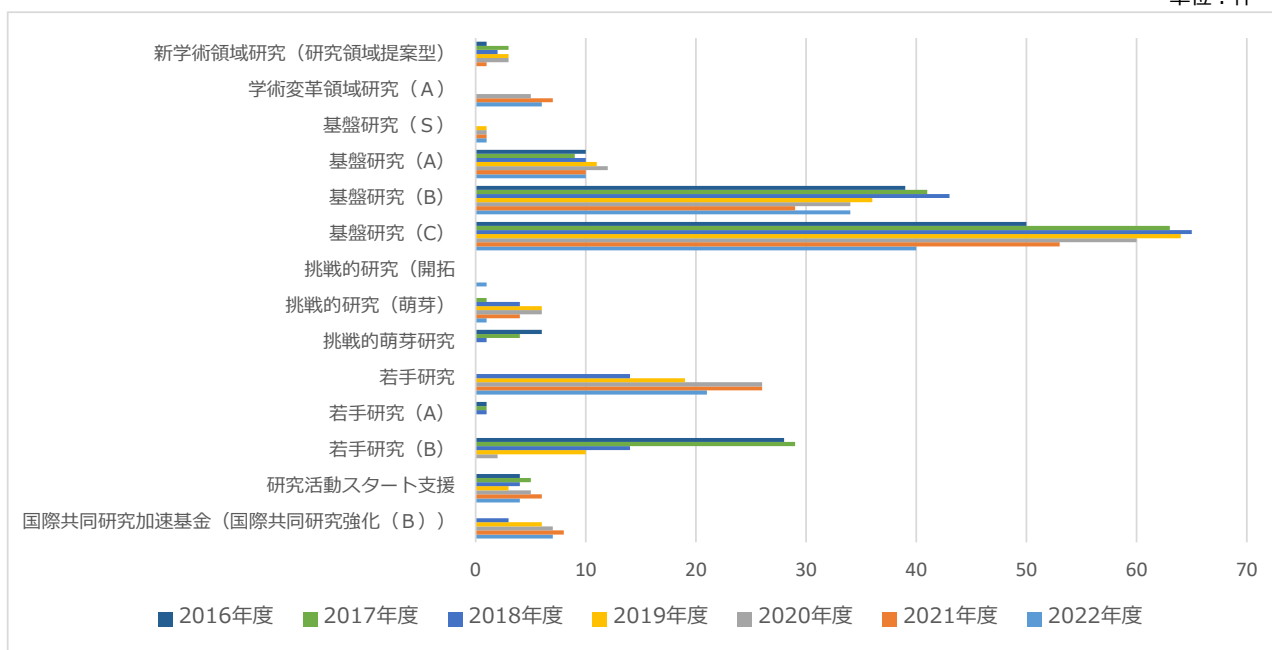


単位：千円

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
新学術領域研究 (研究領域提案型)	13,390	44,330	34,580	40,690	35,620	14,560	
学術変革領域研究 (A)					73,580	75,920	86,190
基盤研究 (S)				31,850	35,490	35,360	36,660
基盤研究 (A)	84,110	78,260	93,080	96,330	113,620	89,635	84,240
基盤研究 (B)	169,520	169,910	183,690	160,680	138,190	122,980	140,400
基盤研究 (C)	64,220	77,350	79,950	73,580	70,200	55,510	42,770
挑戦的研究 (開拓)							4,420
挑戦的研究 (萌芽)		2,210	9,620	11,310	13,260	8,320	1,430
挑戦的萌芽研究	6,240	3,510	1,170				
若手研究			15,340	18,980	24,570	22,815	21,450
若手研究 (A)	2,340	2,470	1,300				
若手研究 (B)	26,910	30,420	13,390	10,660	1,820		
研究活動スタート支援	4,420	6,110	3,510	4,160	5,850	7,930	5,980
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B))			8,710	18,330	31,070	34,710	27,950
合計	371,150	414,570	444,340	466,570	543,270	467,740	451,490

●研究種目別受入件数の推移

単位：件



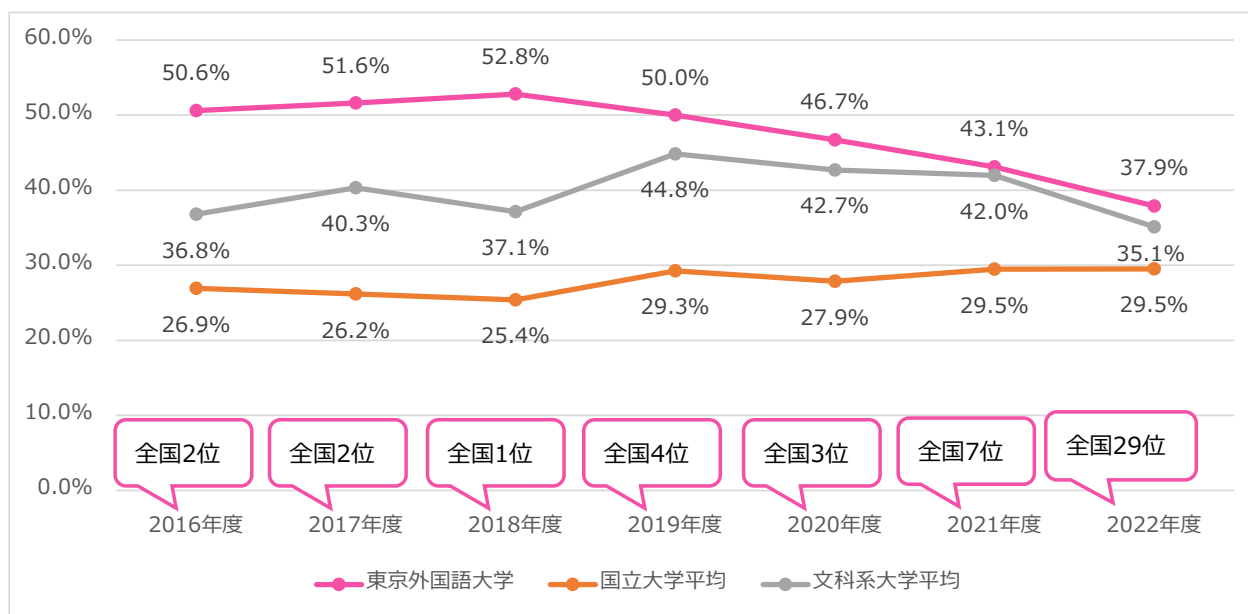
単位：件

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
新学術領域研究（研究領域提案型）	1	3	2	3	3	1	
学術変革領域研究（A）					5	7	6
基盤研究（S）				1	1	1	1
基盤研究（A）	10	9	10	11	12	10	10
基盤研究（B）	39	41	43	36	34	29	34
基盤研究（C）	50	63	65	64	60	53	40
挑戦的研究（開拓）							1
挑戦的研究（萌芽）		1	4	6	6	4	1
挑戦的萌芽研究	6	4	1				
若手研究			14	19	26	26	21
若手研究（A）	1	1	1				
若手研究（B）	28	29	14	10	2		
研究活動スタート支援	4	5	4	3	5	6	4
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））			3	6	7	8	7
合計	139	156	161	159	161	145	125

日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016年度～2022年度をもとに作成
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html

採択率

●新規採択率の推移



※注：順位は新規応募件数が50件以上の研究機関を分析対象とした研究機関別の採択率による

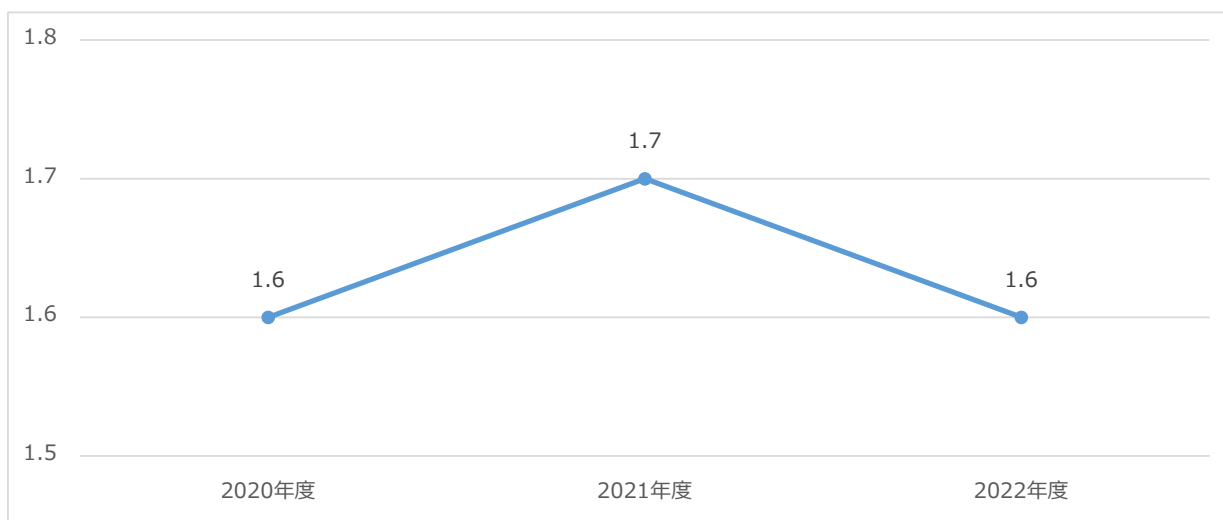
日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016年度～2022年度をもとに作成

(https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html)

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
東京外国語大学	50.6%	51.6%	52.8%	50.0%	46.7%	43.1%	37.9%
国立大学平均	26.9%	26.2%	25.4%	29.3%	27.9%	29.5%	29.5%
文科系大学平均	36.8%	40.3%	37.1%	44.8%	42.7%	42.0%	35.1%

科研費保有数

●教員一人当たりの科研費保有数の推移



項目名／年度	単位	2020	2021	2022
教員一人当たりの科研費保有数	件/人	1.6	1.7	1.6
代表課題数及び分担課題数	件	353	356	353
常勤教員数	人	216	213	216

2022年度 実施課題一覧

● 学術変革領域研究(A)

イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築：世界の分断をのりこえる戦略知の創造

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	黒木 英充	イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築：世界の分断をのりこえる戦略知の創造	R2	R6
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	野田 仁	イスラームの知の変換	R2	R6
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	黒木 英充	移民・難民とコミュニティ形成	R2	R6
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	近藤 信彰	イスラーム共同体の理念と国家体系	R2	R6
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	熊倉 和歌子	デジタルヒューマニティーズの手法によるコネクティビティ分析	R2	R6
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	助教	太田 絵里奈 (塚田絵里奈)	前近代アラビア語史料のデジタル解析による文民エリート的人的ネクサス研究	R3	R4

● 思想、芸術およびその関連分野

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	高尾 賢一郎	世俗化と風紀に関する宗教・地域間比較：一神教社会を中心に	R4	R7
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	八木 久美子	家族概念から見る近代国家におけるイスラーム性と世俗性：20世紀のエジプトを中心に	R2	R5
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	岡本 圭史	宗教現象の再画定をめぐる宗教人類学的研究——ケニア、ドゥルマ社会の悪魔崇拝言説	R2	R5
若手研究	世界言語社会教育センター	准教授	H a u k a m p I r i s	Generic innovation and collaborative scriptwriting: the Narutaki Group and their films within global and local contexts	R3	R5

● 文学、言語学およびその関連分野

1 文学

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	細田 和江	脱中心的多言語領域としての「地中海文学」の構築	H31	R4
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	近藤 信彰	ベルシア語歴史物語の生成、伝播、受容に関する学際的研究	R2	R5
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	山口 裕之	トランスレーション・スタディーズの視点からのドイツ翻訳思想史研究	R2	R4

基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	小田 淳一	ジョゼフ＝シャルル・マルドリユス遺贈未公開手稿カルネの翻刻と分析	R2	R6
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	准教授	野平 宗弘	ベトナムの詩人、阮攸の燕行漢詩集に関する基礎的研究とそれに基づく朝貢ルートの解明	R2	R5
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	武田 千香	ブラジルのマイノリティ文学における複合性：交差する人種・ジェンダー・クラス	R3	R5
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	佐々木 あや乃	ヘルシア語神秘主義叙事詩『精神的マズナヴィー』のテキスト研究	R3	R5
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	久野 量一	ラテンアメリカ文学における冷戦と東アジアに関する研究	R4	R6

2 言語学 ・アジア

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	その他部局等	名誉教授	新谷 忠彦	タイ文化圏に関する言語事典の編纂に向けて	H30	R4
基盤研究(B)	世界言語社会教育センター	教授	齋藤 スニサー	代名詞代用・呼びかけ表現の通言語学的研究	R2	R5
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	澤田 英夫	ビルマの少数民族言語に関する類型的・系統的俯瞰像の構築	R2	R6
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	中山 俊秀	言語喪失の動態の研究：沖永良部語若年層話者における言語消滅メカニズムの解明	R2	R5
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	教授	風間 伸次郎	アルタイ諸言語の文法の総合的研究	R2	R6
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	海老原 志穂	民俗語彙と特有文法に着目した、チベット語東西方言の記述的・通時的研究	H31	R4
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	伊藤 智ゆき	標準韓国語長母音の消失に関する音韻論的研究	R2	R4
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	塩原 朝子	パラレルコーパスに基づくマレー語変種にみられる「一致」の発達についての研究	R2	R6
基盤研究(C)	その他部局等	名誉教授	益子 幸江	声調言語と非声調言語のリズム形成とイントネーションについて	R2	R4
基盤研究(C)	その他部局等	名誉教授	井上 史雄	公共用語の発展的理論と実証調査	R2	R4
基盤研究(C)	大学院国際日本学研究院	教授	花園 悟	危機言語教育に対する日本語教育の方法の適用(3)－中級沖縄語教科書の作成－	R3	R5
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	准教授	南 潤珍	小説コーパスに見る20世紀韓国語の変化に対する総合的研究	R3	R5
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	青井 隼人	琉球諸語における声門化子音の類型的・歴史的研究	R2	R5
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	倉部 慶太	失われつつあるカチン族の言語文化の記録・保存・継承	R2	R5
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	山本 恭裕	バブア・ニューギニアのアイク語の言語ドキュメンテーションと文法記述	R2	R5

若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	助教	安達 真弓	在日ベトナム系「コミュニティ」の再定義：居住地域の言語景観から考える	R4	R8
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	山田 洋平	モンゴル語族の諸言語の自然談話データに基づく記述研究	R4	R8
挑戦的研究（萌芽）	世界言語社会教育センター	准教授	ハーン アーミル・アリー	共通語『現代ヒンドウスターニー語』の解明	R2	R4
研究活動スタート支援	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	古本 真	バントゥ諸語におけるコピュラの通時的機能変化の研究	R3	R4
研究活動スタート支援	大学院国際日本学研究院	研究員	泉 大輔	現代日本語における逸脱的な造語の成立基盤に関する研究	R4	R5
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	塩原 朝子	インドネシア・フィリピンにおける少数言語の記録とコーパス構築に基づく研究	H31	R5
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	中山 俊秀	タイ少数民族における持続可能なコミュニティ協働型言語・文化ナレッジベースの構築	R2	R4

・ヨーロッパおよびアメリカ

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	准教授	大谷 直輝	具体性の高い構文の研究：実証的な言語分析手法の構築を目指して	H31	R4
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	准教授	秋廣 尚恵	現代フランス語話し言葉における談話標識と言語変異の記述	R2	R4
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	特別研究員 (PD)	岩崎 加奈絵	ハワイ語における空間表現—動作の方向を示す機能語の研究	H31	R4
研究活動スタート支援	大学院総合国際学研究院	准教授	内原 洋人	トラバネク語の動詞形態論の通方言的研究	R4	R5
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(A)）	大学院総合国際学研究院	准教授	大谷 直輝	認知・社会言語学の理論的枠組みの精緻化と方法論の構築	R5	R7

・アフリカおよび地域横断

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(A)	大学院総合国際学研究院	教授	中川 裕	言語音の多様性の外延の理解拡大：3基軸データによるカラハリ言語帯の音韻類型論	R2	R6
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	山越 康裕	「文」の規定にかんする記述的研究	R4	R6
若手研究	大学院国際日本学研究院	研究員	牧 彩花	人称表現を用いた心的態度の伝達戦略に関する日仏対照言語学研究	R2	R5
挑戦的研究（開拓）	大学院総合国際学研究院	教授	中川 裕	カラハリ狩猟採集民の持続可能な識字活動の基盤	R4	R8
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）	大学院総合国際学研究院	教授	中川 裕	カラハリ・コエにおける言語と音楽の相互関係：クリックとポリリズム	H30	R4

● 歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(A)	大学院総合国際学研究院	教授	青山 亨	東南アジア「古代史」の下限としての14・15世紀に関する地域・分野横断的研究	H31	R4
基盤研究(A)	大学院総合国際学研究院	教授	吉田 ゆり子	南信濃山里社会の文化的景観とその歴史的形成過程に関する基盤的研究	R2	R5
基盤研究(B)	世界言語社会教育センター	准教授	小野寺 拓也	「感情体制」と生きられた感情—エゴドキュメントに見る「近代性」	H31	R4
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	准教授	小田原 琳	アルペン・アドリア地域を範例とする境界化の権力に対する住民の戦略的実践の研究	H31	R4
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	准教授	伊東 剛史	「共感すること」の歴史の変遷—18～20世紀ヨーロッパの感情史	R2	R4
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	教授	篠原 琢	帝国境界の近代化と国民化する帝国	R2	R5
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	石川 博樹	第2次イタリア・エチオピア戦争をめぐる人種・民族問題の研究	R3	R6
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	准教授	巽 由樹子	現代ロシアの文化外交と美術館—「記憶の政治」のメディア分析—	H31	R4
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	永原 陽子	「人骨研究」と植民地主義—ヨーロッパ・アフリカ・日本	R2	R5
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	熊倉 和歌子	中世エジプト環境変動期の村落社会と地方行政	R2	R5
基盤研究(C)	世界言語社会教育センター	准教授	ロツシャデソウザルシオマヌエル	The first Asian/Japanese communities in the Hapsburg Empire (1560-1770)	R4	R6
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	千葉 敏之	歴史的ロタリンギアの堆積構造とオットー朝宮廷の統治実践	R4	R6
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	准教授	芹生 尚子	軍事と男性性の関係をめぐる基礎的研究—啓蒙の世紀フランスにおける軍隊社会の諸相	R4	R7
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	准教授	久米 順子	中世イベリア世界の多文化共生再考：アルフォンソ10世賢王時代に関する学際的研究	R4	R6
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	特別研究員(CPD)	上林 朋広	南アフリカにおけるズールー・エスニシティの変容：人種隔離から排外主義へ	R3	R6
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	大鳥 由香子	19世紀末から1920年代半ばの米国国境における児童保護と移民規制	R4	R7
研究活動スタート支援	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	守田 まどか	近代移行期のオスマン帝都イスタンブルにおける秩序と地縁的共同体	R3	R4

●地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(S)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	河合 香史	社会性の起原と進化：人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化理論の新開拓	H31	R5
基盤研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	外川 昌彦	現代南アジアにおけるムスリム社会の多極化の傾向-テロとツーリズム	H31	R5
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	床呂 郁哉	ものの人類学的研究—技芸複合の視点から	R2	R6
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	西井 凉子	死の人類学再考：アフェクト/情動論による「現実」への人類学的手法による探究	R3	R7
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	吉田 ゆか子	「コロナ状況」下で育まれる芸能—危機への応答・身体性をめぐる交渉・社会との関係	R3	R5
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	教授	土佐 桂子	実践としての民主主義：ミャンマーにおける「贈与のネットワーク」の可能性	R4	R7
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	椎野 若菜	現代東部アフリカ社会をゆるがすセクシュアリティ・結婚の変容とシングル化	R4	R7
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	吉田 優貴 (古川 優貴)	ケニアの聾／聴者の相互行為態に関するヴィジュアル・メソッドを用いた民族誌的研究	R2	R4
基盤研究(C)	その他部局等	名誉教授	深澤 秀夫	マダガスカルにおける民衆暴力の生成基盤と国家権力との再帰性をめぐる人類学的研究	R3	R6
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	内山田 康	原子力開発のグローバルなネットワークの周縁における生活世界の変容の人類学	R3	R5
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	研究員	上村 明	モンゴル国西部の音の世界と声の技術：アルタイの山の主といかに交信するか	R4	R7
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	助教	河合 文	半島マレーシアの狩猟採集民における移動と社会	H31	R4
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B))	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	外川 昌彦	現代バングラデシュの社会変動とイスラーム-地域研究の統合分析	H30	R4
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B))	その他部局等	名誉教授	深澤 秀夫	インド洋西域島嶼社会における包摂・接合・分離をめぐる共和制と多元問題の共同研究	H31	R6

●政治学およびその関連分野

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(A)	大学院総合国際学研究院	教授	青山 弘之	東アラブ地域の非公的政治主体による国家機能の補完・篡奪に関する研究	H30	R4
基盤研究(A)	大学院総合国際学研究院	教授	武内 進一	アフリカ国家論の再構築—農村からの視点	R3	R7
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	教授	篠田 英朗	国際安全保障の協働化／分業化：アフリカにおけるパートナーシップ平和活動の比較	R2	R4
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	研究員	青木 健太	紛争後のハイブリッドな国家建設の妥当性に関する実証研究：アフガニスタンを事例に	R3	R5

基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	准教授	中山 裕美	生命科学技術による国際秩序変容の分析：生体情報を用いた移民管理の普及を事例として	R3	R6
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	木村 正美	「近代」の中の占領期：日米同盟形成要因の再考	R2	R5
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）	大学院総合国際学研究院	教授	武内 進一	アフリカの農村資源管理と国家—ガーナとルワンダの比較研究	H31	R4
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）	大学院総合国際学研究院	教授	松永 泰行	国家・政治と宗教的ナショナリズム：比較の視座におけるイランの西部国境地域	R3	R6

●教育学およびその関連分野

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(A)	大学院総合国際学研究院	教授	根岸 雅史	CEFR-Jに基づくCAN-DOタスク中心の教授と評価に関する総合的研究	R2	R6
基盤研究(A)	その他部局等	名誉教授	芝野 耕司	大規模日本語定型表現抽出と構造分析による帰納的文法再構築及び日本語教育への応用	R2	R6
基盤研究(A)	大学院総合国際学研究院	教授	投野 由紀夫	CEFR-J 準拠多言語教育統合環境の構築と実践	R4	R8
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	加藤 美帆	欠席の戦後史—長期欠席、登校拒否から不登校へ	H31	R5
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	布川 あゆみ	ドイツにおける移民の社会統合をめぐる問題：学校適応の「難しさ」に着目して	H31	R4
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	谷口 晴香	寛容な社会性をもつニホンザルの離乳期の育児：子どもの中で子を育てる	R3	R6

●その他の分野

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	長澤 榮治	イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究	R2	R5
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	准教授	望月 源	大規模字幕コーパスからの単語・フレーズ・会話のボトムアップ言語教材自動抽出	H31	R4
基盤研究(C)	現代アフリカ地域研究センター	研究員	大石 晃史	公共サービスをめぐる紛争の解決モデル：ラテンアメリカを事例として	R2	R4
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	准教授	内山 直子	グローバル・バリューチェーンとメキシコ経済成長のパラドックスに関する実証分析	R4	R7
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	田邊 佳美	仏旧植民地出身移民（の子孫）の抵抗—インターセクショナルな連合の不／可能性	R2	R5
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	川本 智史	前近代オスマン朝の住宅史の再構築：接客空間の形成を中心に	R2	R5

●分野横断：言語教育

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	教授	望月 圭子	国際連携・高大連携による英語・中国語・日本語「作文/対話」学習者コーパスの研究	R2	R4
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	教授	川口 裕司	言語変異に基づくフランス語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析	R2	R5
基盤研究(B)	大学院国際日本学研究院	教授	鈴木 智美	辞書サイト・アプリ開発に資する質の高い日本語例文バンクの構築とその応用研究	R3	R6
基盤研究(B)	その他部局等	名誉教授	高島 英幸	小学校プロジェクト型外国語教育における練習から言語活動までの可視化と評価	R3	R7
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	教授	吉富 朝子	CEFR-Jに準拠した英語スピーキング能力の指導・評価システムの拡充	R3	R6
基盤研究(B)	大学院国際日本学研究院	教授	伊集院 郁子	日本語アカデミック・ライティングの学習および教育を支援するポータルサイトの構築	R4	R8
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	准教授	内藤 稔	就学期の児童生徒への多言語支援に向けたコミュニティ通訳者養成教材の研究	R2	R4
基盤研究(C)	大学院国際日本学研究院	研究員	本田 ゆかり	日本語到達度指標JFスタンダードに準拠した語彙・表現リストの開発	R3	R5
基盤研究(C)	世界言語社会教育センター	講師	沖本 与子	日本語学習者と日本語教師のためのオンライン自己動詞習得支援システムの開発	R3	R5
基盤研究(C)	大学院国際日本学研究院	准教授	大津 友美	職場における架け橋人材のコミュニケーションの研究	R4	R7

●分野横断：地域研究

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	世界言語社会教育センター	准教授	東城 文柄	エコヘルスの視点からのサルマリア対策に資するフィールド科学の統合的実践	R2	R5
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	研究員	高岡 豊	中東の非国家武装主体の越境的活動に関する比較研究	R3	R5
基盤研究(B)	世界言語社会教育センター	教授	萩尾 生	共生社会の実現に向けた社会政策としての多言語政策に関する言語社会学的国際比較研究	R3	R5
基盤研究(B)	大学院国際日本学研究院	教授	友常 勉	社会運動における生存権・生存思想の影響とその射程に関する基礎的研究	R3	R5
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	教授	日下 渉	東南アジアにおける道徳政治の光と影——新興中間層の政治意識と自由民主主義の動揺	R3	R6
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	小倉 智史	ヒマラヤ西部におけるチベット系ムスリムの総合的研究	R4	R7
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	教授	栗屋 利江	「感情」の視角から南アジア研究を再考する	R4	R7
基盤研究(C)	世界言語社会教育センター	准教授	三代川 寛子	コプト正教会のアフリカ宣教活動とその影響についての総合的研究	R3	R7

基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	宮田 敏之	タイ農協の農業関連事業改革とその課題：タイ東北部・香り米生産地域の農協経営戦略	R3	R5
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	登利谷 正人	アフガニスタンにおける国民統合政策の変容に見るエスニシティ間対立構造の分析	H31	R4
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	片岡 真輝	集合的記憶がフィジーの民族関係に及ぼす影響についての研究	R2	R5
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	川添 達朗	南九州における関係人口創出のインテンシティと生物多様性の関連	R4	R6

●分野横断：その他

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	星 泉	フィールドデータと文献資料をつなぐ「チベット語民俗語彙=用例データベース」の構築	R2	R6
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	金 富子	朝鮮半島の植民地遊廓の形成・展開・変容～解放後韓国への連続/非連続に注目して～	R2	R5

○分類方法

新学術領域研究（研究領域提案型）、学術変革領域研究(A)はそのまま分類した。

それ以外の研究種目は、科学研究費助成事業「審査区分表」（平成30年度助成に係る審査より適用）より引用し、中区分を軸に分類を行い、件数が多い場合は小区分、さらに多い場合は内容より判断し地域に細分化して分類を行った。

- ・基盤S：審査区分が大区分のため、内容より判断し中区分に細分化
- ・基盤A、挑戦的研究（開拓・萌芽）：審査区分が中区分のため、そのまま分類
- ・基盤B,C、若手研究：審査区分が小区分のため、審査区分表に基づき中区分に振り直した
- ・その他の研究種目：審査区分や内容により中区分に分類

第3章 外部資金

第2節 受託研究・共同研究・受託事業

※国立大学の文科系大学について

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による各国立大学の財務関係情報の集計・分析に用いられる特性別区分（86大学を学部構成等の特性に応じて①旧帝国大学、②附属病院を有する総合大学、③附属病院を有しない総合大学、④理工系大学、⑤文科系大学、⑥医科系大学、⑦教育系大学、⑧大学院大学の8区分に分類）を基に、⑤文科系大学の5大学間で比較を行う。

【⑤文科系大学 5大学】小樽商科大学、東京外国語大学、東京藝術大学、一橋大学、滋賀大学

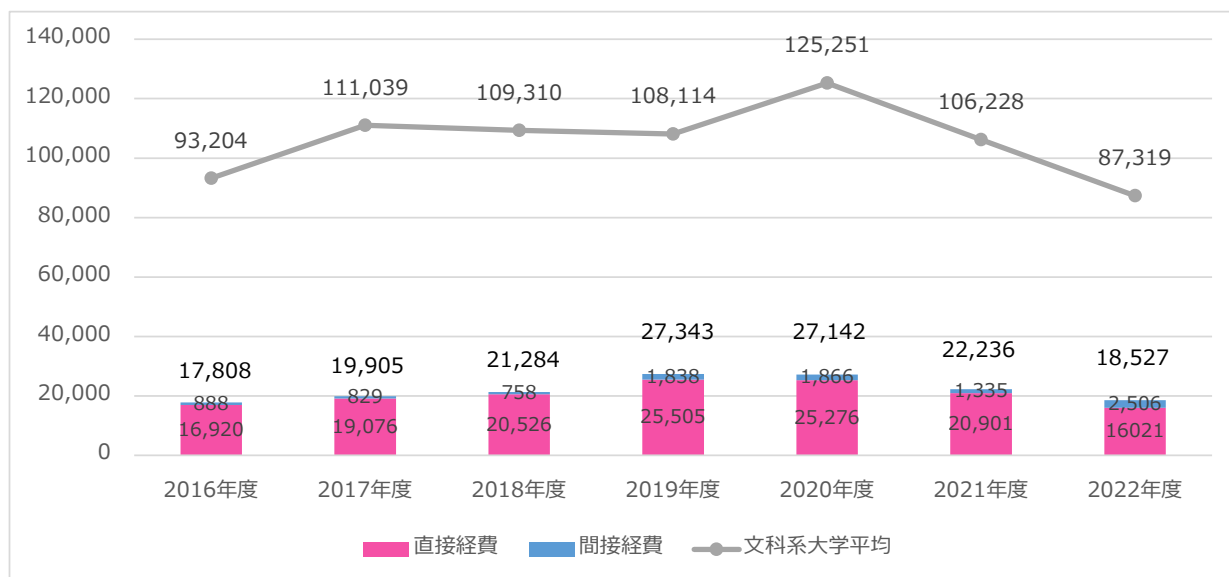
受託研究

受託研究とは、国立大学法人等において外部からの委託を受けて法人の業務として行う研究で、これに要する経費を原則として委託者が負担するものである。国立大学法人等は、契約に基づき当該研究の成果を委託者に報告する等の義務を負う。

（「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」に関する実務指針（令和4年5月19日最終改訂）より）

●受入金額の推移

単位：千円



各大学 財務諸表 2016年度～2022年度をもとに作成

単位：千円

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
直接経費	16,920	19,076	20,526	25,505	25,276	20,901	16,021
間接経費	888	829	758	1,838	1,866	1,335	2,506
合計	17,808	19,905	21,284	27,343	27,142	22,236	18,527
文科系大学平均	93,204	111,039	109,310	108,114	125,251	106,228	87,319

●2022年度 受託研究の内訳

機関	研究テーマ
独立行政法人日本学術振興会	【課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業】 予測的符号化の原理による心性の創発と共有-認知科学・人文学・情報学の統合的研究-
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構	グローバル地域研究推進事業
ベルギー (FWO)	バントウ諸語の過去と現在：ミクロ類型論，歴史比較言語学，辞書学の統合による新展開
独立行政法人 日本学術振興会	人文学の分野に関する学術研究動向及び学術振興方策－言語学分野における言語コーパスの構築と言語変異研究の現状および若手研究者育成支援－
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構	2022年度新型コロナウイルス感染症にかかる地球観測衛星データの公衆衛生的評価
民間企業	英語スピーキングテストアプリの開発

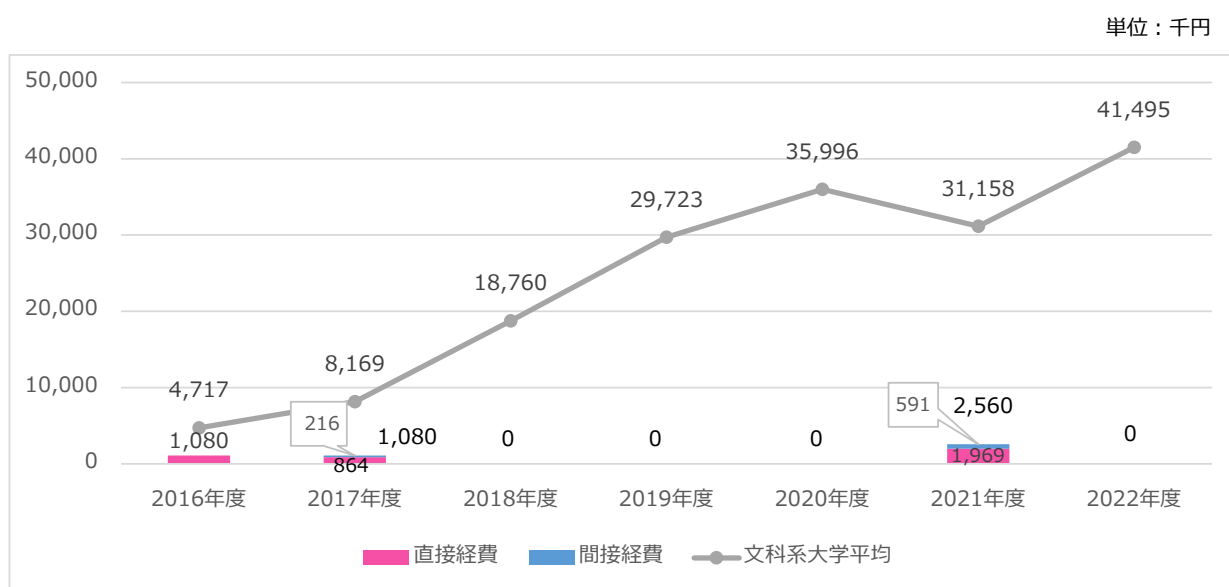
共同研究

共同研究とは、

- ①国立大学法人等において、民間等外部の機関から研究者及び研究経費等を受け入れて、当該法人の教員が民間等外部の機関の研究者と共通の課題について共同して行う研究
 - ②国立大学法人等及び民間等外部の機関において共通の課題について分担して行う研究で、当該法人において、民間等外部の機関から研究者及び研究経費等、又は研究経費等を受け入れるもの
- のことである。

（「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」に関する実務指針（令和4年5月19日最終改訂）より）

● 受入金額の推移



各大学 財務諸表 2016年度～2022年度をもとに作成

単位：千円

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
直接経費	1,080	864	0	0	0	1,969	0
間接経費	0	216	0	0	0	591	0
合計	1,080	1,080	0	0	0	2,560	0
文科系大学平均	4,717	8,169	18,760	29,723	35,996	31,158	41,495

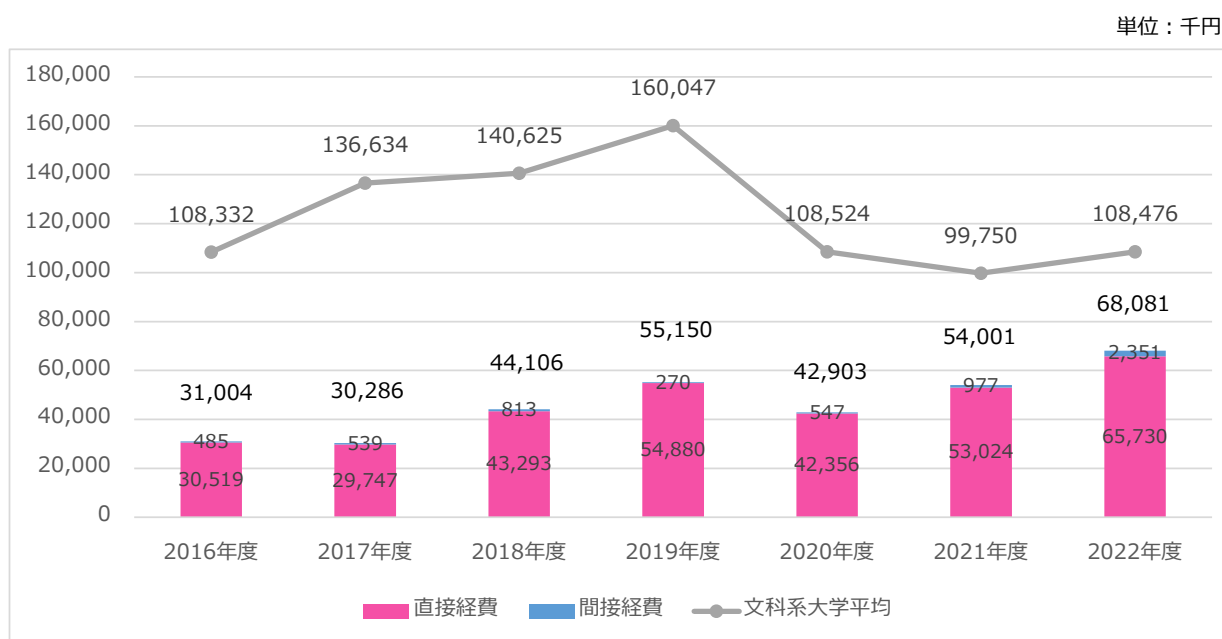
●2022年度 共同研究の内訳

機関	研究テーマ
	なし

受託事業

受託事業とは、国立大学法人等において外部からの委託を受けて法人の業務として行う諸活動のうち、受託研究を除くものであり、これに要する経費を原則として委託者が負担するものである。国立大学法人等は、契約に基づき当該業務の成果を委託者に報告する等の義務を負う。（「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」に関する実務指針（令和4年5月19日最終改訂）より）

●受入金額の推移



各大学 財務諸表 2016年度～2022年度をもとに作成

単位：千円

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
直接経費	30,519	29,747	43,293	54,880	42,356	53,024	65,730
間接経費	485	539	813	270	547	977	2,351
合計	31,004	30,286	44,106	55,150	42,903	54,001	68,081
文科系大学平均	108,332	136,634	140,625	160,047	108,524	99,750	108,476

第3章 外部資金

第3節 寄附金

※国立大学の文科系大学について

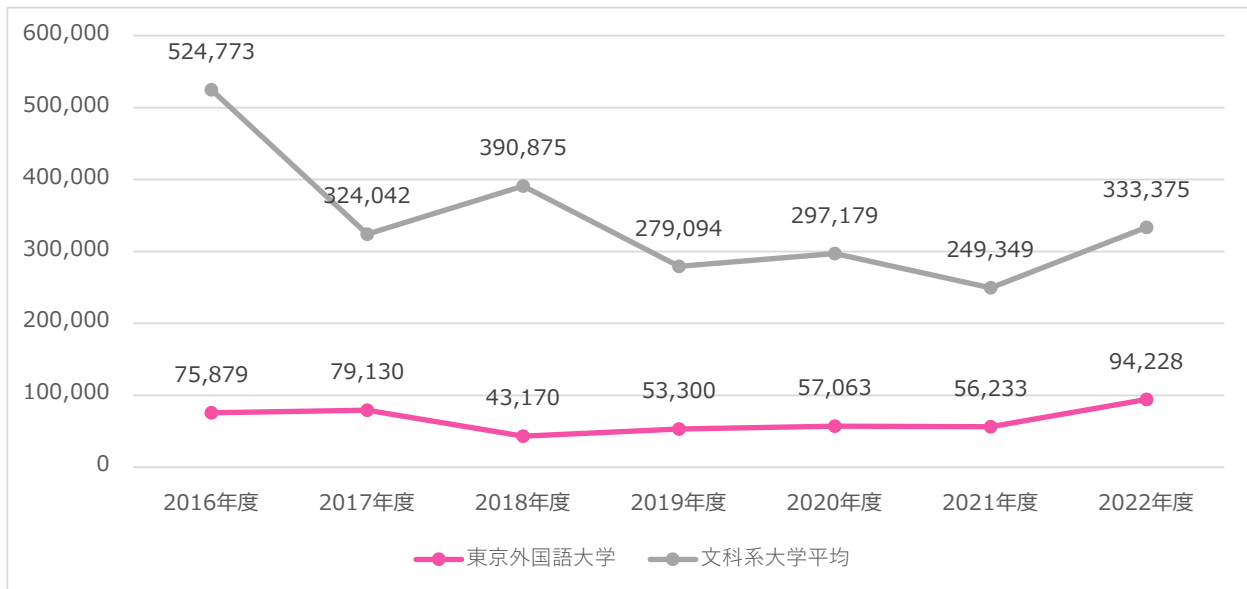
独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による各国立大学の財務関係情報の集計・分析に用いられる特性格別区分（86大学を学部構成等の特性に応じて①旧帝国大学、②附属病院を有する総合大学、③附属病院を有しない総合大学、④理工系大学、⑤文科系大学、⑥医科系大学、⑦教育系大学、⑧大学院大学の8区分に分類）を基に、⑤文科系大学の5大学間で比較を行う。

【⑤文科系大学 5大学】小樽商科大学、東京外国語大学、東京藝術大学、一橋大学、滋賀大学

寄附金

●受入金額の推移

単位：千円



2016～2017年度 文部科学省「国立大学関係データについて」

2018～2021年度 文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について」

2022年度 各大学令和4年度決算をもとに作成

単位：千円

項目名/年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
東京外国語大学	75,879	79,130	43,170	53,300	57,063	56,233	94,228
文科系大学平均	524,773	324,042	390,875	279,094	297,179	249,349	333,375

2022年度 研究業績一覧

● 大学院総合国際学研究院

1 査読論文等

No	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
1	青山 弘之	「トルコのシリア侵略の「尖兵」としてのクルド民族主義組織PYD」	中東研究		545	49	64
2	秋廣 尚恵	Marie Skrovec Layal Kanaan-Caillol & Hisae Akihiro (2022) Le marqueur après à l'oral : Une approche micro-diachronique, variationniste et interactionnelle	Langages		226	117	131
3	伊東 剛史	19世紀ロンドンの乗合馬車と社会生活—Omnibus Life in London (1859) に関する一考察	専修大学人文科学研究所月報		318	47	59
4	伊東 剛史	(書評) Helen Louise Cowie, Victims of Fashion: Animal Commodities in Victorian Britain	ヴィクトリア朝文化研究		20		
5	上原 こずえ	施政権返還後の福祉労働者の闘いが提起した人間排除のシステムの問題	生活経済政策		306	21	24
6	内原 洋人	Morphosyntactically conditioned tone change in Central Zapotec.	International Journal of American Linguistics	88	3	325	359
7	内原 洋人	Minimality, maximality and perfect prosodic word in Alcozauca Mixtec	Natural Language and Linguistic Theory	40		599	649
8	浦田 和幸	英語における命令的接続法の通時比較 —「マタイ伝」を資料に	関東英文学研究	15		21	29
9	大石 高典	Traditional knowledge of plants used in hunting and fishing practices among Baka hunter-gatherers of eastern Cameroon	Journal of Ethnobiology and Ethnomedicine	19	1		
10	大石 高典	ンソンカリ・チャールズ=ジョーンズ氏半生記訳注	東京外国語大学論集		105	217	251
11	大石 高典	Perception and management of diseases and therapeutic resources among Ewondo population (Central Region of Cameroon): A case of malaria and spleen disease	ASC-TUFS Working Papers		3	121	138
12	小野寺 拓也	歴史的に考えるとどのような営みか—『アンネの日記』の授業実践から	ゲシヒテ		15	50	60
13	風間 伸次郎	アルタイ型言語の再帰表現について	北方言語研究		13	143	169
14	加藤 晴子	日中对訳小説に見る使役表現について	東京外国語大学論集		105	63	79
15	加藤 雄二	『ドライブ・マイ・カー』を読む—男性・女性/語り・風景/音・沈黙—1. 回復と救済の不在	総合文化研究		26	6	20
16	川上 茂信	Seseo-ceceo を巡って	スペイン語学研究		37	25	47

17	川口 裕司	Frequency and collocations in L1 and L2 French: Très, beaucoup, mais, penser, and croire in Japanese learners' speech	外国語教育研究		25	130	148
18	川口 裕司	アクセントの産出に影響を与える要因はどのように共起するか フランス語を母語とする日本語学習者の場合	外国語教育研究		25	20	37
19	川口 裕司	日本語を母語とするフランス語学習者50人の発音特徴-[i]の前の[t]、[s]、[ʃ]の発音について-	外国語教育研究		25	111	129
20	川口 裕司	Notes on the Use of the Turkish Phoneme /r/ by French-speaking Learners	ふらんぼー		48	52	65
21	菊池 陽子	日本軍のシエンクワン進駐—シエンクワンにおける仏印武力処理とその後を中心に—	東京外大 東南アジア学	28		72	94
22	久米 順子	慶應義塾図書館所蔵アルフォンソ10世関連写本ファクシミリ版二作品解説—『聖母マリアの古謡集』および『チェス、さいころ、盤上ゲームの書』—	言語・文化・コミュニケーション (慶應義塾大学日吉紀要)	54		75	96
23	斎藤 弘子	The order of acquisition of L2 English intonation by Japanese learners	Journal of the Institute of Language Research		27	1	8
24	佐野 洋	2つの認知過程—量化と関係性の意味を対照させる言語学習	信学技報	TL2022-40		36	41
25	澤田 ゆかり	「香港における新型コロナの現状：第5波の衝撃と規制緩和への転換」	社会保障研究	7	3	291	294
26	鈴木 美弥子	ドイツにおける電力供給障害による損害賠償責任	国際関係論叢	11	2	69	98
27	鈴木 美弥子	コロナ禍におけるオンライン授業と大学授業料返還訴訟について	早稲田大学教育学会紀要		24	77	84
28	武内 進一	Pinning the TICAD along the idealism and realism axis	East Asia Forum				
29	武内 進一	アフリカ農村部における企業と人権—シエラレオネの事例から	日本経営倫理学会誌	30		23	37
30	TIPTIEMPONG Kosit	トムマヤンティーの『ソング・オブ・ライフ』からみるフェミニズム	総合文化研究	26			
31	出町 一恵	"African Trade Ties and Networks"	#IASC-TUFS Working Papers#IR 3, African Studies Center, Tokyo University of Foreign Studies			51	71
32	内藤 稔	日本の大学・大学院における通訳関連科目に関する全国調査報告	通訳翻訳研究		22	91	112
33	中山 智香子	贈与と交換のはざまに：「血」と感染をめぐる社会科学的思考の考察	社会思想史研究	46		9	31
34	南 潤珍	Collaborative collection of multilingual pronoun substitutes and address terms	Proceedings of the 7th International Conference on Business and Industrial Research (ICBIR2022)			36	40
35	西岡 あかね	Der Traum von der weiblichen Solidarität: Expressionistinnen im Ersten Weltkrieg	Expressionismus		15	102	112

36	野元 裕樹	Ergative extraction and the emergence of the active voice in Sumbawa	Proceedings of the Twenty-Eighth Meeting of the Austronesian Formal Linguistics Association (AFLA)			95	111
37	藤縄 康弘	語彙の実態から文法の本質へ — 経験的な言語普遍論研究に資する独英語対照言語学の試み —	ドイツ文学		166	88	107
38	降幡 正志	Catatan Tentang Pengajaran Lafal Bahasa Indonesia terhadap Penutur Jati Bahasa Jepang	Prosiding KOLITA 20	20	20	1	9
39	Ariane Macalinga BORLONGAN	Filipino domestic worker English	ASEAN Journal of Applied Linguistics	1	1	67	79
40	Ariane Macalinga BORLONGAN	Lilo Moessner's The history of the present English subjunctive: A corpus-based study of mood and modality [Book review]	ICAME Journal	46	1	39	41
41	Ariane Macalinga BORLONGAN	Migrants in the midst of the COVID-19 pandemic: A migration linguistic perspective	Migration Letters	19	4	501	508
42	Ariane Macalinga BORLONGAN	Language issues of migrants during the COVID-19 pandemic: Reimagining migrant (linguistic) integration programs in (post-)pandemic times	Journal of English and Applied Linguistics	1	2	17	26
43	前田 和泉	「矛盾する声—プーシキン『こだま』をめぐって」	スラヴ文化研究		20	94	103
44	前田 和泉	「反体制と「文学」——ウリツカヤ『緑の天幕』を手がかりに——」	スラヴ学論集		26	33	44
45	丸山 空大	フランツ・ローゼンツヴァイクの思想と「実存哲学」	東京外国語大学論集		104	53	72
46	水野 善文	古代・中世インド文芸世界のなかにもみる聖典—羽衣伝説モチーフと『阿弥陀経』を例として—	印度学仏教学研究	71	1	1	11
47	三宅 登之	中国語の行為解説の進行形	東京外国語大学論集		105	143	157
48	望月 源	Mining Formulaic Sequences from a Spoken Japanese Based on Consolidated Contextualized N-gram Analyses and Its Verification with Key Phrases in Japanese Language Textbooks	ED-MEDIA: World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia & Telecommunications, EdMedia: World Conference on Educational Media & Technology	1	2022	909	916
49	森田 耕司	ポーランド語における所有・存在表現	東京外国語大学 語学研究所論集		27	149	159
50	森田 耕司	ポーランド語における情報構造と名詞述語文	東京外国語大学 語学研究所論集		27	169	174
51	森田 耕司	ポーランド語における連用修飾的複文	東京外国語大学 語学研究所論集		27	161	168
52	八木 久美子	「イスラムの礼拝の呼びかけ、コミュニティを作り出す声」	総合文化研究		26	56	69
53	山口 裕之	声を翻訳する	総合文化研究		26	70	82

54	吉枝 聡子	イシュコマン・ワヒー語におけるアラインメント	語学研究所論集	27		9	26
55	米谷 匡史	戦後日本における植民地主義批判の生成—鶴見俊輔と鈴木道彦の場合（韓国語）	ソウル大学校日本研究所日本批評（韓国・ソウル）		27	48	75
56	若松 邦弘	イギリス政治の構造変化—二〇一〇年代の不満の二つの波と政党間競争の変容	国際関係論叢	11	2	28	68

2 書籍

No	教員名	担当区分	書籍タイトル	出版社・発行元
1	青山 弘之	単著	ロシアとシリア：ウクライナ侵攻の論理	岩波書店
2	青山 弘之	共著	戦火の中のオタクたち	晶文社
3	粟屋 利江	共編者(共編著者)	Inclusive Development in South Asia	Routledge
4	大川 正彦	単訳	テッサ・モーリス＝鈴木『辺境から眺める－アイヌが経験する近代』〈新装版〉	みすず書房
5	岡田 昭人	編訳	教育と国家形成 原書第2版	東京大学出版会
6	岡田 昭人	共著	Japan's School Curriculum for the 2020s Politics, Policy, and Pedagogy	Springer
7	小田原 りん	共訳	【翻訳】 キャロル・ヘルストスキー『イタリア料理の誕生』	人文書院
8	小野寺 拓也	単著	野戦郵便から読み解く「ふつうのドイツ兵」－第二次世界大戦末期におけるイデオロギーと「主体性」（山川セレクション）	山川出版社
9	風間 伸次郎	単著	日本語の類型	三省堂
10	久野 量一	単訳	レオナルド・パドゥーラ『わが人生の小説』	水声社
11	倉田 明子	単訳	九龍城寨の歴史	みすず書房
12	斎藤 弘子	共著	大人の英語発音講座【新装復】	研究社
13	篠田 英朗	単著	集団的自衛権で日本は守られる；なぜ「合憲」なのか	PHP研究所
14	中山 智香子	共著	100分de名著for ティーンズ	NHK出版
15	中山 智香子	共訳	貨幣の国家理論	日本経済新聞出版
16	丹羽 京子	単著	Rabindranath and Tagore: Collected Essays	Hornbill Press
17	橋本 雄一	共編者(共編著者)	地球の音楽（山口裕之、橋本雄一共編著）	東京外国語大学出版会
18	藤縄 康弘	編集	複合判断・単独判断とドイツ語文法 ― 定性を軸に ―	日本独文学会

19	藤縄 康弘	共編者(共編著者)	ドイツ語学への視点・ドイツ語学からの視座 —成田節教授退職記念論文集—	同学社
20	Ariane Macalinga BORLONGAN	編集	Philippine English: Development, structure, and sociology of English in the Philippines	Routledge
21	望月 圭子	共著	Learner Corpora: Construction and Explorations in Chinese and Related Languages	Springer Nature
22	八木 久美子	共編者(共編著者)	イスラーム文化事典	丸善出版
23	山口 裕之	単著	現代メディア哲学—複製技術論からヴァーチャルリアリティへ	講談社

● 大学院国際日本学研究院

1 査読論文等

No	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
1	阿部 新	日本語学習者と日本語教師のピリーフを探るーインドネシアでのフォーカス・グループによるパイロット調査からー	海外日本語教育研究		14	37	54
2	伊集院 郁子	作文評価ルーブリックの開発と課題 (【特集】ライティング評価の新潮流)	早稲田日本語教育学		33	1	13
3	伊集院 郁子	キャリア形成支援教材『エピソードとタスクから描く私のキャリアプラン』の設計と特徴ータスクとプロジェクトに焦点を当ててー	東京外国語大学論集		105	175	192
4	海野 多枝	Using multimodal language learning histories to understand learning experiences and beliefs of second language learners in Japan	Modern Language Journal	107	1	308	327
5	大津 友美	日本語教師と高校教員の「連絡帳」を用いた異分野間コミュニケーションー外国人高校生への日本語学習支援のための連携体制構築をめざしてー	東京外国語大学論集		104	97	112
6	木村 正美	"Writing a Common History Text for Mutual Understanding among Japanese, Korean, and Chinese Students"	The History Teacher	55	3	463	495
7	SEATON PHILIP ANDREW	Travelling the Bakumatsu Opera The Woman Who Loved Toshizō: Towards a theory of music-related contents tourism	International Journal of Contents Tourism	5		1	18
8	鈴木 美加	「『漫才ワークショップ』による学生の学びー言語を相対的に捉えるネタ作りと即興創作体験ー」	Proceedings on The International Symposium on Japanese Language Education: Rediscovering Japanese - Japanese Language Education in the Spotlight				
9	鈴木 美加	「身近なメディアとコミュニケーションを再発見する機会の提供を意図した学部言語科目での実践ー日本語母語・非母語学生の『メディア・リテラシー』の涵養を意図してー」	日本教育メディア学会研究会論集	54		83	88
10	伊達 宏子	上級日本語学習者を対象とした「対話型短歌鑑賞」授業の実践	東京外国語大学論集 (Area and Culture Studies)	105		1	26
11	伊達 宏子	中国人留学生の日本政府奨学金による博士後期課程進学選択の理由ー2021年度中国赴日本国留学生予備学校学生への質問紙調査ー	日本語・日本学研究	13		51	73
12	中井 陽子	ナラティブの協働構築によるラポール形成ー母語話者による留学中の苦労話の語りを通してー	国立国語研究所論集	24		89	112
13	花園 悟	沖縄首里方言における語頭声門破裂音の機能負担量	沖縄文化		125		
14	林 俊成	遠隔日本語教育実習の実施における問題点に関する教育デザイン研究のアプローチに基づいた調査研究	第6回アジア未来会議			968	977
15	林 俊成	筆記再生課題を取り入れた読解授業の実践的研究ー再生率とテキストタイプを中心にー	第6回アジア未来会議			1390	1399
16	林 俊成	学習者主体と教師主導型を融合した読解授業に関する実践的研究	世界」に繋がるための日本語・日本語教育			184	191
17	林 俊成	オンライン上の関係性構築におけるプラットフォームの有効性ー遠隔日本語教育実習における実習生ー学習者間の関係性構築へむけてー	「世界」に繋がるための日本語・日本語教育			94	101

2 書籍

No	教員名	担当区分	書籍タイトル	出版社・発行元
1	阿部 新	共著	第二言語学習の心理：個人差研究からのアプローチ	くろしお出版
2	荒川 洋平	共編者(共編著者)	国際コミュニケーションマネジメント入門	アスク出版
3	荒川 洋平	単著	会話でひろげる日本語語彙 Go Easy !	アスク出版
4	伊集院 郁子	共著	留学生と大学生のためのエピソードとタスクから描く私のキャリアプラン：課題発見解決力と人間関係構築力を育てる	凡人社
5	中井 陽子	共著	会話データ分析の実際－身近な会話を分析してみる－	ナカニシヤ出版
6	Iris HAUKAMP	共編者(共編著者)	Asian Sound Cultures: Voice, Noise, Sound, Technology	Routledge
7	春名 展生	共編者(共編著者)	国際関係の系譜学	晃洋書房

●世界言語社会教育センター

1 査読論文等

No	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
1	WITTAYAPANYA NON, Sunisa	Examples of Attempts at Contrastive Studies between Japanese and Chinese/Thai toward Linguistic Typology	jsn journal		12	2	11
2	WITTAYAPANYA NON, Sunisa	タイ語録音図書プロジェクトを通して見られた日本語母語話者のタイ語文音読に関する課題と指導方法に関する考察	東京外国語大学論集			10	159 173
3	大鳥 由香子	UAMsの創出：1907年移民法と「保護者帯同の原則」の法制化	年報 アメリカ研究				
4	川本 智史	「異教徒の家」－1455年台帳からみる征服直後のイスタンブル	都市史研究	9		1	23
5	川本 智史	東京モスクと技師吉本與志雄	東京外国語大学論集		105	81	107
6	CROTEAU Jean- Philippe	Pensée et discours de l'Action française de Montréal sur les Juifs (1917-1928) : Une représentation marginale, mais persistante	Canadian Jewish Studies/Études juives canadiennes	33		51	78
7	CROTEAU Jean- Philippe	Un Canada français à la croisée des chemins. Le discours de L'Action française et de L'Action nationale sur la question de l'immigration (1917-1967) : méfiance, refus et ouverture	Francophonies d'Amérique	54		43	73
8	CROTEAU Jean- Philippe	« C'est un peu comme l'écho d'un peuple ». Le fossé entre la mémoire collective et l'histoire dans la conscience historique des jeunes franco-ontariens et québécois	Objets difficiles, thèmes sensibles et enseignement des sciences humaines et sociales			217	239
9	小島 祥美	CLD生徒の教育に対する高校教師のピリーフ変容 ―二言語作文アセスメントを通して―	母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究		18	65	80
10	小島 祥美	守られていない外国籍の子どもの教育への権利と命	移民政策研究		14	58	72
11	小島 祥美	学齢超過した外国につながる青少年と大学生が創るワークキャンプの意義とその効果－コロナ禍でのNPO・大学との連携実践から	ボランティア学研究		23	115	122
12	邵 丹	形而上学的ジレンマとしての黒人少女の存在 一日中におけるトニ・モリスンの『青い眼がほしい』の受容の比較研究	総合文化研究				
13	田邊 佳美	サバルタン・マイノリティ集団・政治的連帯―仏・旧植民地出身女性を中心とする対 抗的公共圏の戦術	クアドランテ		25	55	85
14	土田 耕督	探索される本意と流用されることば―藤原定家「こまとめて袖うちらはふかげもなしさのわたりの雪の夕暮」新註	東京外国語大学論集		104	123	142
15	東城 文柄	バングラデシュ・バブナ県における大規模質問票調査によるカラ・アザール流行のリスク分析	FINDAS リサーチペーパーシリーズ	15			
16	西畑 香里	通訳の仕事に対する社会的認知をめぐる問題について－大学の通訳教育における講義科目の役割考察－	通訳翻訳研究			21	119 139
17	西畑 香里	「江戸時代の漂流民、音吉・ジョセフ彦・ジョン万次郎の文献調査と比較分析」	MITIS Journal	3	1	1	28

18	藤田 百子	上級日本語学習者を対象とした「対話型短歌鑑賞」授業の実践	東京外国語大学論集	105	1	26
19	山田 洋平	モンゴル語の形容詞の「程度」を表す範疇	語学研究所論集	27	27	49
20	山本 恭裕	Causal-noncausal verb pairs in Ilocano	Kyoto University Linguistic Research	41	19	42

2 書籍

No	教員名	担当区分	書籍タイトル	出版社・発行元
1	藤井 豪	分担執筆	東アジア転換期の政治的葛藤と思想的模索	ソニン
2	Khaldoon HUSSIEN	編訳	手袋を買いに	東京外国語大学

●アジア・アフリカ言語文化研究所

1 査読論文等

No	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
1	荒川 慎太郎	西夏文字の「底部右端が跳ね上がる繞」について	日本漢字学会報		4	19	36
2	石川 博樹	Increase in Teff Consumption in Northern Ethiopia between the 16th and 18th Centuries and the Birth of Injera	African Study Monographs. Supplementary Issue	61		7	40
3	伊藤 智ゆき	Iterated Learning Models of Language Change: A Case Study of Sino-Korean Accent	Cognitive Science	46			
4	倉部 慶太	Kachin orature project: Documentation, archiving, and revitalization of oral heritage in northern Myanmar	LD&C Special Publication No. 27: Voices: Perspectives from the International Year of Indigenous Languages			75	93
5	倉部 慶太	Hpu Lum Htu and two boys: A folktale text in Jinghpaw	Asian and African Languages and Linguistics	17		105	125
6	澤田 英夫	Mr. Lamaung Khao Hhao's Memoir of His Life: Until His Graduation of High School	Asian and African Languages and Linguistics		17	151	189
7	塩原 朝子	Preliminary observations on the stylistic change in direct speech encoding strategies in Malay and Indonesian	NUSA		73	29	46
8	塩原 朝子	スンバワ語の情報構造と名詞述語文	語学研究所論集		27	675	685
9	塩原 朝子	The Legend of Inggü Fufuk, or the Beetle Village: A Folktale of Lole, a Language Spoken on Rote Island	Asian and African languages and linguistics		17	127	149
10	品川 大輔	'Pig' in Bantu	地理言語学研究		2	122	125
11	品川 大輔	Aspect in Bemba (Bantu M42)	語学研究所論集	27		993	1006
12	品川 大輔	Passive expressions in Bemba (Bantu M42)	語学研究所論集	27		985	992
13	西井 涼子	死者と「顔」	日本顔学会誌	22	2	53	59
14	山越 康裕	Mongol khelnii bolokh-toi taarakh khamnigan mongol khelnii khoyor üil ügiin tukhai	Mongol Khel Zokhiol Sudlaliin Khögjil, Chig Khandlaga			189	198
15	吉田 ゆか子	THE MOVEMENTSCAPE OF A HINDU TEMPLE IN JAKARTA	Proceedings of the 6th Symposium: The ICTM study group on performing arts of Southeast Asia			148	153
16	渡邊 己	Making Dugout Canoes: A Sliammon Text Told by Agnes McGee	Asian and African Languages and Linguistics	17		89	103

2 書籍

No	教員名	担当区分	書籍タイトル	出版社・発行元
1	河合 香吏	編集	Extremes: The Evolution of Human Sociality	Kyoto university press and Trans Pacific Press
2	呉人 徳司	単著	日本・モンゴル両国の教育、文化、スポーツの分野で共に歩んだ50年を振り返って	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
3	黒木 英充	共編者(共編著者)	イスラーム信頼学へのいざない	東京大学出版会
4	後藤 絵美	共編者(共編著者)	記憶と記録にみる女性たちと百年（イスラーム・ジェンダー・スタディーズ5）	明石書店
5	後藤 絵美	共編者(共編著者)	マイノリティとして生きる——アメリカのムスリムとアイデンティティ	東京外国語大学出版会
6	塩原 朝子	監修	あなたの知らない、世界の希少言語：世界6大陸、100言語を全力調査!	日経ナショナルジオグラフィック社
7	床呂 郁哉	共編者(共編著者)	コロナ時代の身体コミュニケーション	勁草書房
8	野田 仁	編集	近代中央ユーラシアにおける歴史叙述と過去の参照	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
9	星 泉	単訳	絶縁	小学館
10	星 泉	分担執筆	はじめて読む!海外文学ブックガイド：人気翻訳家が勧める、世界が広がる48冊	河出書房新社
11	星 泉	編訳	チベット幻想奇譚	春陽堂書店
12	山越 康裕	単著	詳しくわかるモンゴル語文法 [新版]	白水社

(本件担当)

東京外国語大学研究協力課研究企画係

Tel: 042-330-5592

Mail: kenkyu-soumu@tufs.ac.jp